

ニュー・サウス・ウェルズ植民地における 方格プランの導入と破綻

金 田 章 裕

1. はじめに
2. アメリカ式タウンシップの採用
 - a. ブリスベーンとオクスレイの土地計画
 - b. タウンシップの設定
3. バサーストの指令とパリッシュへの転換
 - a. ビッグ報告書とバサーストの指令
 - b. ダーリングとオクスレイの対応
 - c. タウンシップからパリッシュへの転換
 - d. 郡・ハンドレッド・パリッシュの設定と実体
4. 不徹底な方格プランとその破綻
 - a. 方格プランに対するミッチェルの対応
 - b. 方格プランの破綻
5. おわりに

1. は じ め に

マックアリー (L. Macquarie) がニュー・サウス・ウェルズ (New South Wales) 植民地の総督であった1809年から1821年にかけて、同植民地は大きな転機にさしかかっていた。人口は増大し、入植者に対する下付地も著しく増大した。初期のフィリップ (A. Phillip) 総督の計画が頓挫して以来、統一的・規則的な計画が施されないままに発達したシドニー (Sydney) の市街地の再編も、マックアリーの意図に比べれば極めて不完全なものであった¹⁾。土地を下付される資格を得た個人があらわれる度にその都度測量を実施し、その場所と区画を設定する旧来の方法もすでに限界に達していた。測量長官オクスレイ (J. Oxley) が植民地調査官として派遣されたビッグ (J. T. Bigge) にあてた1821年1月15日付の手紙は、この状況を極めて具体的に的確に示している。オクスレイは、その解決のために、土地の下付に先だって測量を実施し、地図を作製すること、正方形の土地区画を設定すること、面積36平方マイル以下の地区

1) 金田章裕：オーストラリアにおける19世紀以前の都市プラン『オーストラリア研究紀要』No. 7. 1981年。

(district)を設定すること、などの提言をこの手紙に盛り込んだ。²⁾ オクスレイの手紙はビッグによってロンドンへ伝達されたが、その反応がもたらされる前に、新総督ブリスベーン (T. Brisbane) の下で、方格プランへの第一段階をふみ出した。

小稿の目的は、このようにして動き出した方格プランの内容とその実施の状況を追跡することにある。そこには間もなく、ロンドンからのビッグの報告書の影響も加わり、やや錯雑した展開がみられることになる。

しかもこの時期、すでに英領植民地から独立したアメリカ合衆国において、ほぼ6マイル四方の正方形のタウンシップ (township) の区画を基本とする方格プランのシステムが完成していた。³⁾ このタウンシップが北米のかつての英領植民地の総督への訓令に示された地区単位の名称と規模に合致するものであり、同一名称の地区の設定はニュー・サウス・ウェルズの歴代総督に対しても指示されていたことはすでに指摘した。⁴⁾ 19世紀前半のオーストラリアの方格プランを検討するに際しては、植民地政府および英本国の政策のほか、先行したアメリカ合衆国のタウンシップ・システムの伝播と受容に関する視角をも同時に念頭におかねばならない。

2. アメリカ式タウンシップの採用

a ブリスベーンとオクスレイの土地計画

ブリスベーンがマックアリーの後を継いで総督に就任したのは1821年12月1日のことであった。マックアリーは、ニュー・サウス・ウェルズ植民地のモラルの向上やラム酒貿易の弊害をとり除くことに努め、さらにシドニーの都市計画をはじめ土木事業にも熱心であったが、その専制的政策は、植民地の上・中流階層や将校の反発・離反を招いていた。とりわけ増加した流刑囚や刑を終えたエマシピストと呼ばれた人々のあつかいに対する反発は大きく、植民地調査官ビッグに課せられた目的はその現状把握と政策の見直しにあった。⁵⁾ ブリスベーンは、このような状況に対応してモートン (Moreton) 湾に注ぐブリスベーン川を溯ったところに新しい牢獄都市ブリスベーンを建設し、⁶⁾ また、すでに限界に達していた旧来の土地政策についても大きな変更を加えたが、土地区画に関する新方針はとりわけ画期的なものであった。

ブリスベーンは、総督就任後間もなく、総督府官房長ゴールバーン (F. Goulburn) を通じて測量長官オクスレイに次のように指示した。⁷⁾

2) 金田章裕：方格プラン施行前夜のオーストラリア『オーストラリア研究紀要』No. 9, 1984年。

3) W. D. Pattison: Beginnings of the American Rectangular Land Survey System, 1784-1800, University of Chicago, Dept. of Geography, Research Paper No. 50, 1957. pp. 192-204. タウンシップ・システムは1796年に最終的に確認され、一般化された。

4) 金田：前掲2)

5) 金田：前掲2)

6) 金田：前掲1)

総督府官房

1822年2月18日

謹啓

私は、トーマス・ブリスベーン卿閣下から、貴下に次のような要望を伝達するように指示されております。将来のために測量・区画されるすべての土地は、正南北・東西方向の長い平行線によって、6マイル四方のタウンシップに区画され、タウンシップはさらに1マイル四方のセクションに細分されて、各タウンシップの北西隅より始まる1から36の番号を規則的に付すものとするものであります。

ニューカッスル（Newcastle）周辺において地割の設定を急ぐのが閣下の御意向であります。その町からハンター（Hunter）川を溯って、これらの原則にもとづいて測量・区画するために、貴下の助手の1人を可能な限り遅滞なく急派することを要請するよう私は指示されております。その助手には同時に、2週間毎に進捗状況を貴下の事務所に報告し、彼の区画图と野帳の謄本を貴下に送付する特別の訓令を与えるものであります。

敬白

F. ゴールバーン

総督府官房長

J. オクスレイ殿

ニュー・サウス・ウェルズ測量長官

すでに指摘したように、ブリスベーンは、彼の前任の歴代総督と同様に勅令としては「便利なる規模と広がり of タウンシップを設定」するような指示を得ていたに過ぎないが、これに初めて明確で規則的・画一的な規準を与えたことになる。⁸⁾

ブリスベーンが指示した「6マイル四方のタウンシップ」とは、まさしくアメリカ合衆国で採用されていたタウンシップの規模である。彼は総督に就任するまでに、1795年から1799年にかけて西インド諸島へ、1800年から1803年にはジャマイカへ赴任していたし、1814年にはアメリカとの戦争で旅団を指揮していた。このような経験に加え、彼はまた天文学に深い関心を有していたことからすれば、アメリカ合衆国の新しいタウンシップ・システムを承知していたと⁹⁾考えてよいであろう。¹⁰⁾しかし、天文学に造詣が深かったにもかかわらず、彼の指示にはアメリカ

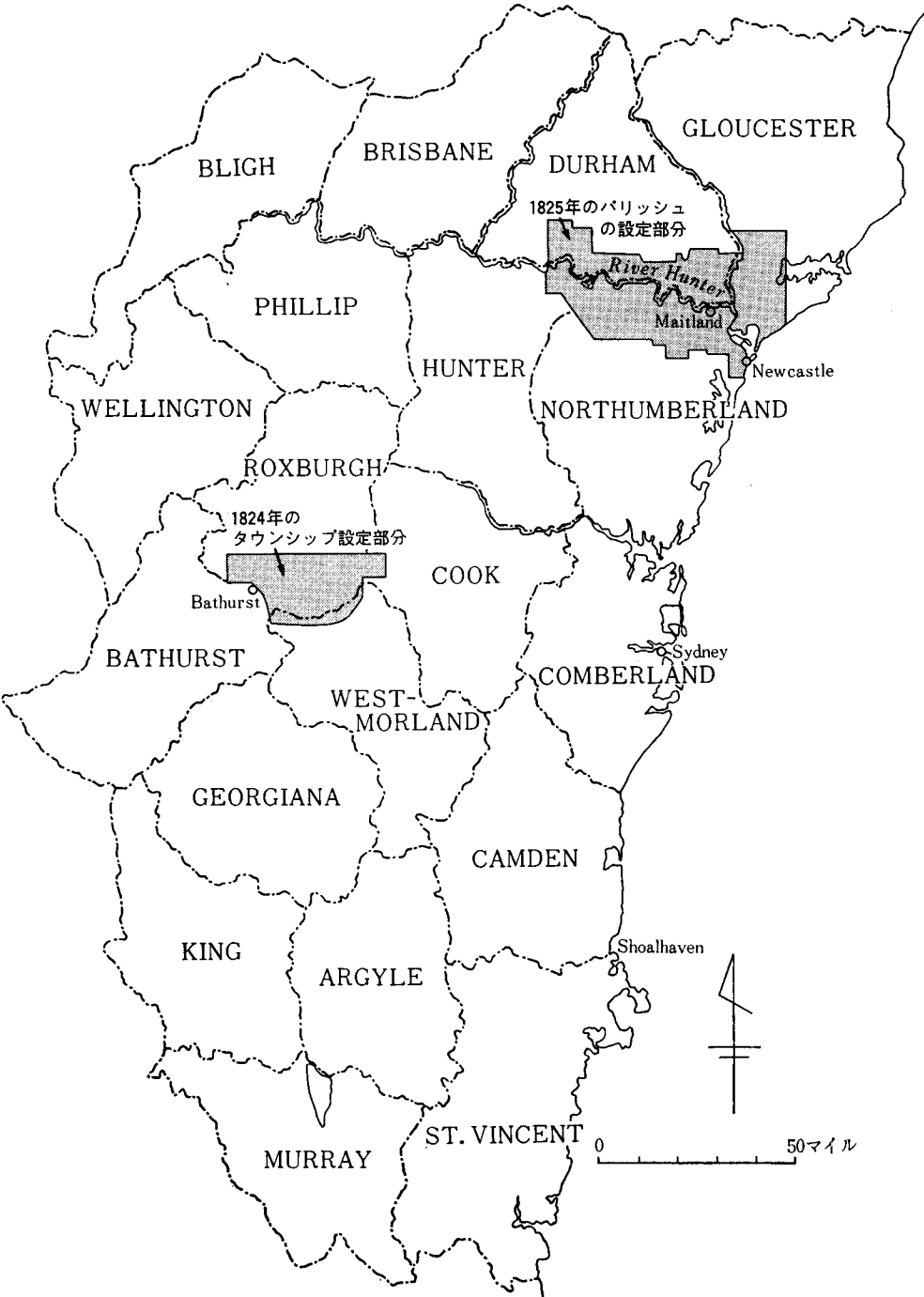
✓7) Colonial Secretary to Surveyor General, 18 Feb. 1822. Archives office of New South Wales (以下 A.O.N.S.W. と略記) 2/1432.

8) 金田：前掲2).

なお、D. N. Jeans は Brisbane による Township の開始を1821年としている (An Historical Geography of New South Wales to 1901, Sydney 1972, p. 108) が1822年に訂正すべきであろう。

9) J. D. Heydon: Brisbane, Sir Thomas Makdougall, in D. Pike ed., Australian Dictionary of Biography Vol. 1, Melbourne, 1966.

10) D. N. Jeans: The Breakdown of Australia's First Rectangular Grid Survey, Australian ✓



第1図 1829年確定の19郡と、第4図のタウンシップおよび第5図のバリッシュの確定節図

カ式タウンシップ・システムが有していた、経緯線に基づいた基準線を設定した上でタウンシップの区画を決定するという基本的部分が欠除していることには注目しておく必要があろう。1から36の番号を各タウンシップの北西隅から始める、とするのも、北米での一般的な番号のつけ方とは異なっていることにも留意しておきたい。¹¹⁾

ところで、ブリスベーンのこの指示は、彼の総督就任から2カ月余り後、シドニー到着からすれば3カ月余りを経た時期に出されたものであった。測量長官オクスレイが旧来の土地測量・区画の方法と手順の限界および正方形の土地区画の必要性を、植民地調査官ビッグに訴えてから約1年後のことであった。具体的な状況は不明としなければならないが、ブリスベーンはオクスレイと当然会っている筈であり、ブリスベーンの指示は、オクスレイの意見、もしくは土地測量・区画の実情をふまえたものであったとみて大過ないであろう。¹²⁾

第1図のようにニューカッスルで太平洋に注ぐハンター川の流域への入植が始まったのは1813年ごろのことであり、マックアリー総督が訪れた1818年7月には8つの農場が、1820年までには23の農場ができていた。これらの農場は水流に面し、何ら規則的な形状や規模をもつものではなかった。¹³⁾ 上掲の指令を受けとったオクスレイは、3月1日付で測量官の1人であったダンガー (H. Dangar) をハンター川流域へと派遣した。彼の使命はその地方に1マイル四方の区画を設定することであり、すでに場所を選定していた入植者の土地の区画を方形に設定し、川に面した1マイル四方の区画を原則として1人が1区画しか所有しないようにした。¹⁴⁾¹⁵⁾

b タウンシップの設定

ダンガーはハンター川流域においてこのように測量を開始し、方形の区画を設定していった。第2図は作者不明であるが、1823年頃のハンター川流域の地図である。¹⁶⁾ 同図には全面に1マイ

Geographical Studies, 4-2, 1966, においては、明確にアメリカタイプのタウンシップと断言している。

- 11) Ohio で1785年に設定された Seven Ranges では東南隅に始まって北へ数え進む平行式の区画番号であり、1796年にやはり Ohio で設定されて後に一般化するのは北東隅に始まって西へ数え進む千鳥式である。

N. J. W. Thrower: Original Survey and Land Subdivision, A. A. G. Monograph Series, Chicago, 1966. pp. 5-8 and 131.

- 12) ビッグの帰国が1821年3月、ブリスベーンのシドニー到着が同年11月7日であるから、この指令直前に両者がどこかで直接会っている可能性は少ない。しかし、ビッグが植民地各層から聴取した内容は様々な形で間接的にブリスベーンにも届いていた可能性は高い。

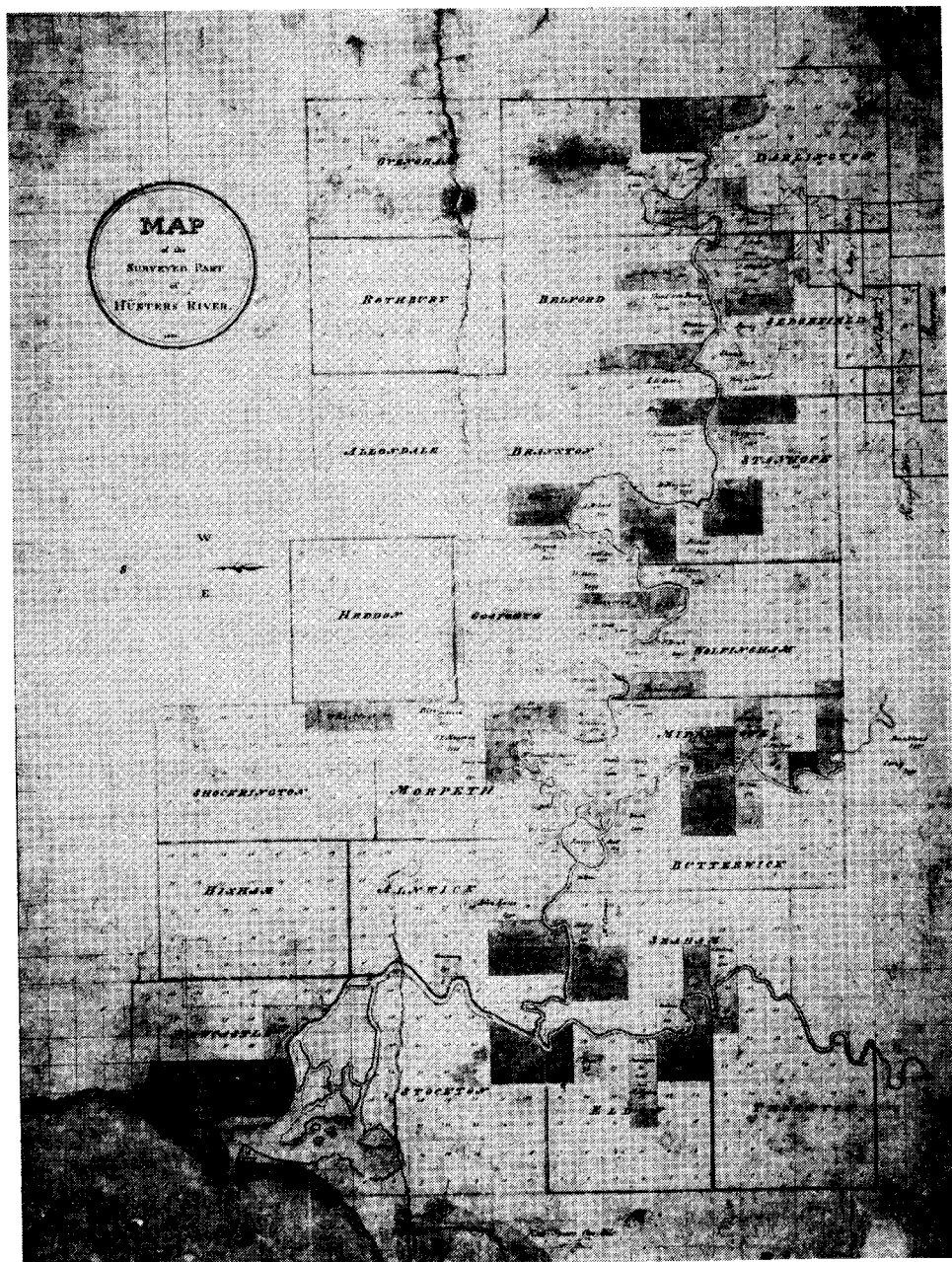
- 13) T. M. Perry: Australia's First Frontier, Melbourne. 1963. pp.61-62.

- 14) Oxley to Dangar, 1 Mar. 1822, Colonial Secretary's In-Letters, Newcastle (16-18), T. M. Perry の引用 (前掲13) p.66) による。

- 15) T. M. Perry: ibid., 13), p. 66. しかし、マックアリー総督がすでに保障を与えていた場合には、それに従った。

- 16) Map of the Surveyed Part of Hunter River 1823, A. O. N. S. W. Map 6280.

同図の作製にはダンガー自身がかかわっていた可能性は高いのであるが、後述のように1828年にダンガーが作製した地図とはかなり異なった区画が描かれている。



第2図 1823年におけるハンタリー川流域のタウンシップ (注16)

ルの方格がほどこされており、東西41マイル、南北31マイルにわたって記載がある。この範囲のハンター川および支流の形状が詳細に描かれ、川や海岸に接している部分以外は一辺4～8マイルの直線で囲まれた23の区画が記されている。同図には凡例がないが、これがタウンシップの区画と考えられ、それぞれの内部の1マイル四方の区画には番号が付されている。ただし、前掲のプリズペーンの指令には6マイル四方のタウンシップと明示されているにもかかわらず、同図に記載されたタウンシップで正確にその規定によっているのはヘドン（Heddon）とアロンドンデイル（Allondale）の2つのみである。タウンシップ内の番号も、東南隅から始まり北へ進む平行式であり、やはりプリズペーンの指令とは異なっている。タウンシップの区画が、直線のみでなく曲がりくねった河道をも境界としているのは、測量長官の指示によったものとみられ、ダンガーはオクスレイから1822年10月16日付で次のような指令を受けとっている。¹⁷⁾すなわち、¹⁸⁾

「いくつかのタウンシップの区画の設定に従事している際には、その地方の自然状況に格別の注意を払い、平坦であるか山がちであるか、あるいはよいか悪いかといった一般的な地貌についての適切な描写をすることを貴下に要請しなければならない」

と、自然条件に対する十分な配慮を指示している。各タウンシップには第2図のようにそれぞれ固有名詞が付されているが、それらは総督が命名したものであろうこと、また、タウンシップ名を記入した地図を測量庁に保管し、謄本をダンガーに送って、どのタウンシップのどのセクションかが現地と事務所の双方で完全に判明するようにしたことなども、この指令書から知ることができる。

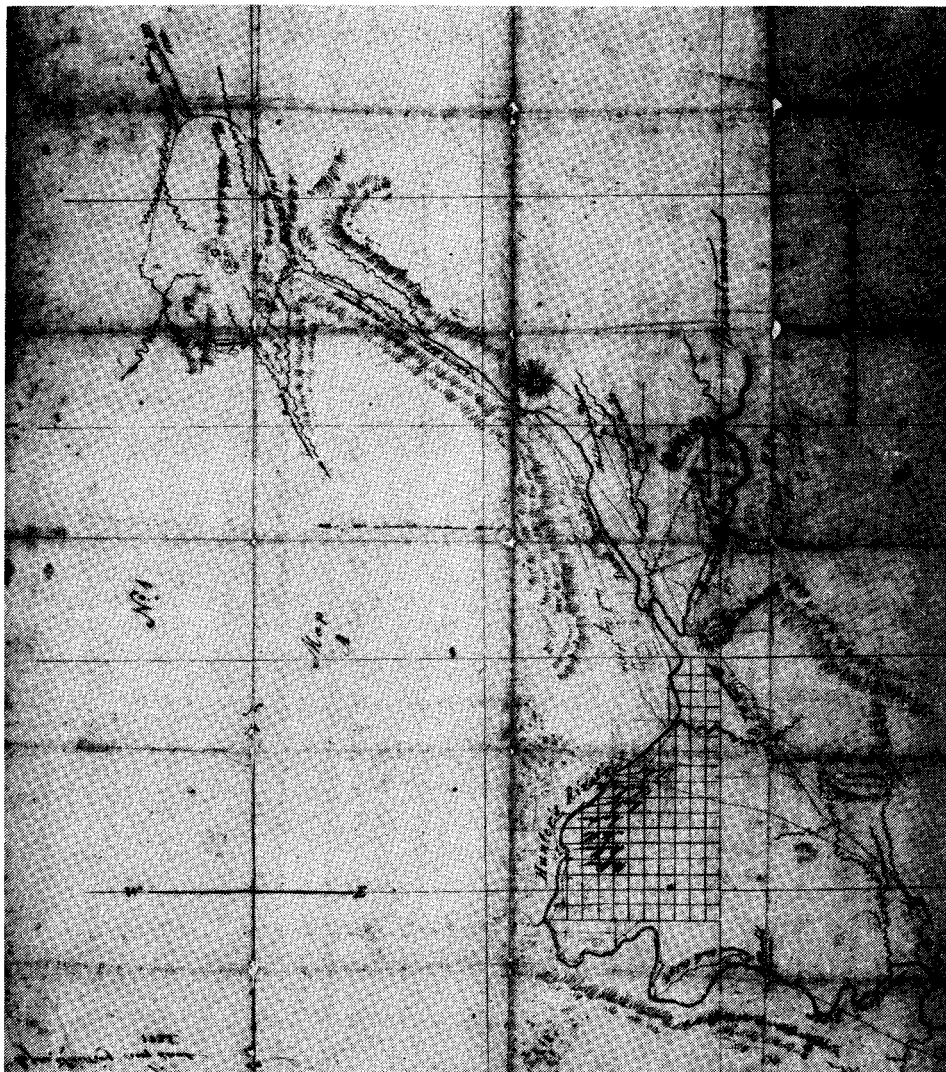
同図には、主として川沿いの部分に下付地を得た人々の名前と面積が記入されている。これらの土地は前述のように、原則として河川に1マイル幅で接するようになっており、また面積の単位には500, 1,000, 2,000 エーカーといった例が多く、1マイル四方の区画の面積にあたる640 エーカーを基本単位としていない。従って、各下付地の区画は1マイル幅の短辺を水流に接した様々な長さの長方形となっている。

また、23のタウンシップのうち、ハンター川やその支流に面していない5つを除けば、各タウンシップには保留地が設定され、着色されている（第2図では黒もしくは灰色に見える部分）。やはり前述の10月16日の指令書には、

「以前に指示されたように、国王の御使用のための4つのセクションをそれぞれのタウンシップの中央に、保留する代わりに、中央部のセクションが保留地とするのに最も好都合でない場合、特にそれが中心にあるかどうかを考慮せずに、土壌・水・立地条件からみて最良のセクションのうちの4つを、いわゆるタウンシップから外へはみ出して保留すべきである」

17) 前掲11)に述べたような Ohio の Seven Ranges と同じ様式である。

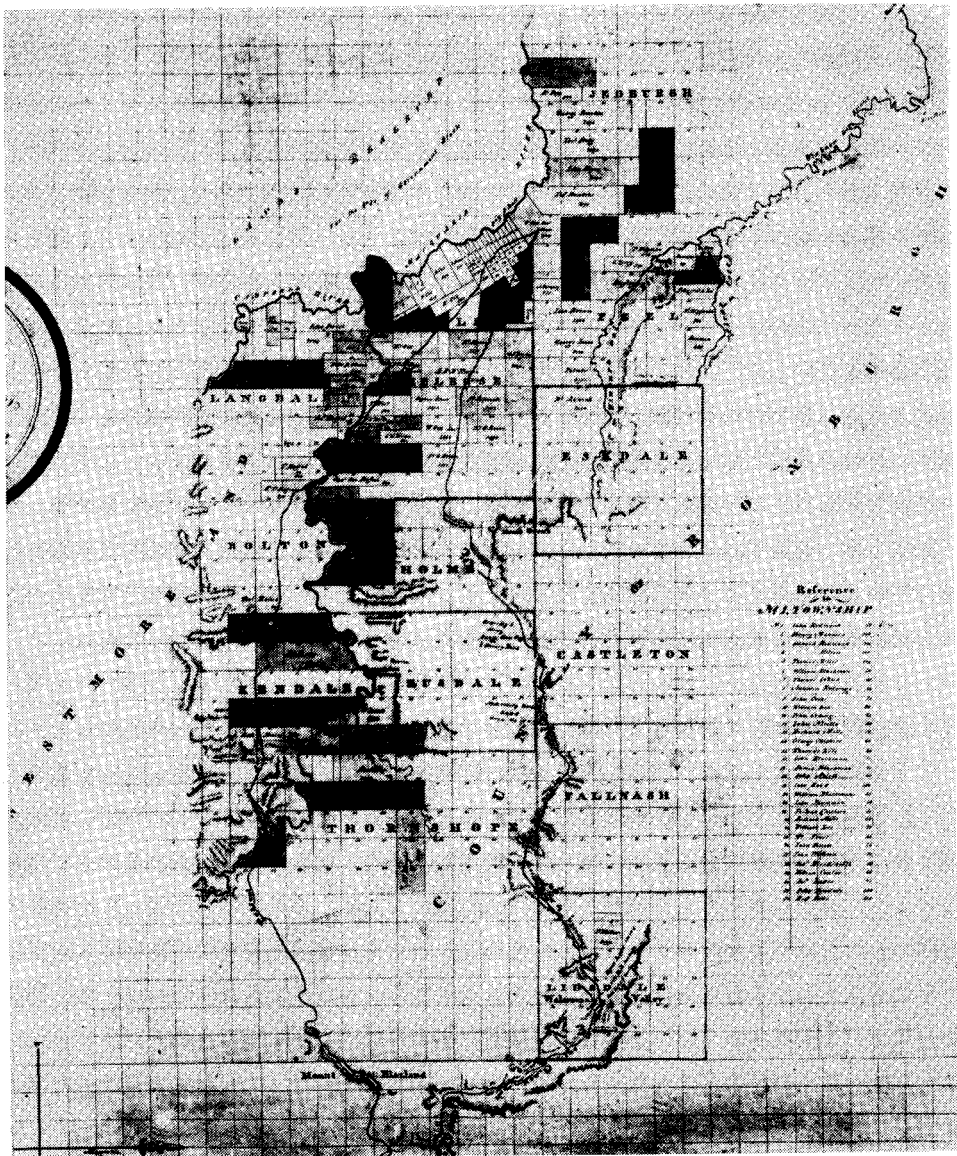
18) Oxley to Dangar, 16 Oct. 1822, A. O. N. S. W. 4/6906.



第3図 ハンター川上流域における1マイル方格の設定（注19）

と、1タウンシップ当たり4区画分の保留地を必ずしもタウンシップの中央部にこだわらず、必要があれば外部においてでも、最良の条件の場所を選んで設定すべきことを指示している。従って、1カ所の例外を除けば保留地が川沿いの部分に集中している第2図のような状況も、ダンガーがオクスレイの指示に従った結果であるとみなすことができよう。

ダンガーは測量を実施して地図を作製しつつ、このような区画の設定を進めたのであるが、第3図はそのような作業プロセスをよく示した地図である。同図は1824年にダンガーが作製した地図で、ハンター川上流のダート・ブルック（Dant Brook）川との合流点付近にいて、マッキンタイヤ（P. McIntyre）の土地選定に先だって準備されたものである。¹⁹⁾ ハンター川が大



第4図 1824年におけるパサースト付近のタウンシップ（注21）部分

きく曲流する付近に描かれた方格の一边が1マイルであり、前掲の第2図はこのような作業の集成の上で作製された地図とみなすことができよう。

19) H. Dangar: Chart belonging to Peter McIntyre before selecting any land 1825. The Mitchell Library (以下 M.L.と略記) M2・812・14/1824/1.

1 マイル間隔の方格プランは、ハンター川流域のほか、間もなく第1図に示したようなバサースト (Bathurst) 付近、ショウルヘブン (Shoalhaven) 海岸付近、アーガイル (Argyle) 郡などにおいても実施された。

1814年に始まった早魃をきっかけとして、放牧地化が進んだブルー・マウンテンズ (Blue Mountains) 西側のバサースト付近の平原では、1822年12月16日付のオクスレイへの指令を受けて、翌年1月から1マイル方格の区画が設定され始め、1825年までに91,636エーカーの土地が譲渡された。²⁰⁾ 第4図は、1824年におけるバサースト付近の地図であり、²¹⁾ 第2図のハンター川流域の場合と類似した記載がみられる。第4図には、マックアリー (Macquarie) 川とその支流沿いの、ウェストモアランド (Westmoreland) 郡およびロクスバラ (Roxburgh) 郡にまたがる部分に14のタウンシップが記されている。川に面するタウンシップは川による不規則な境界を有していること、川から離れた部分に4つの正確に6マイル四方からなるタウンシップがあること、各下付地の区画が1マイルもしくはそれ以下の幅の短辺を川に接していること、保留地がやはり川沿いを中心とした部分に偏在していることなど、第2図とほとんど同様の区画の状況を知ることができる。たゞ、タウンシップ内の各セクションに付された番号は、北西隅に始まり南へ進む千鳥式であり、ハンター川流域とは異なって、前掲の1822年2月18日付のブリスベーンの訓令に示された様式となっている。同図の記載によって磁北を基準とした方格プランであることが明確に知られる点にも注意をしておきたい。

バサースト平原からショウルヘブン海岸付近の測量へと配置換えになった測量官マクブライアン (J. McBrien) は1824年8月27日付でオクスレイから次のように指示されていた。²²⁾

「予備的な測量がなされた後、方格線は、ブラック・ヘッド (Black Head) を出発点として、東西・南北方向に引かれるものとする。その地方のすべてに1マイル四方の区画が設定され、入植に適応できるようになるまで、どの土地も入植者にあてがわれるべきではない。このように貴下にさし示した責務が実施されればただちに、事前の申請に従って土地の入手を認められた入植者のリストを貴下に与えることとする。貴下はそこで土地区画に一定の秩序を付与するという責務に従って、それぞれのセクションが設定される際には、各土地区画が適当な分布を示すように、すべての家畜置き場や農家の場所を指示されたい」。

アーガイル郡の測量と区画を担当したハーパー (W. Harper) もまたほぼ同時に次のような指令を受けていた。²³⁾

「アーガイル郡において土地の入手を求める入植者によって非常に夥しい数の申請がなさ

20) T. M. Perry: *ibid.*, 3), pp. 83-86.

21) G. C. Stewart: Plan of Land Located at Bathurst. M. L. M 2. 812. 23/1824/1.
ただし、1823年に Bathurst 付近の測量と区画を担当したのは McBrien であった。(Oxley to McBrien, 27 Feb. 1823. A. O. N. S. W. 4/6906).

22) Oxley to McBrien, 27 Aug. 1824. A. O. N. S. W. 4/6906.

23) Oxley to Harper, 28 Aug. 1824. A. O. N. S. W. 4/6906.

れたため、土地の割りふりを実施するに先だって、その地方の入植に適した場所のすべてに直ちに1マイル方格をほどこすことは不可能である。ただ、その時までには、境界とした方がよいような大きさの川沿いについては十分に測量・区画が進行していなければならないと考えられるから、貴下はこの手紙を受けとってたゞちに、そのような部分の測量・区画を開始されたい。

もちろん、このような区画線が、不毛なため、あるいは離れた場所であるために入植者によって選定されないような広大な範囲にまでのびる必要はない。

「セクションの区画線が開始される地点は、以前に貴下に提案したように、レイド博士の農場の北西の角に都合のよいように設定されたい。その地点については、将来正確な地理的位置を決定するつもりである。

貴下がある地区の入植適地のすべてに区画を設定した時にはいつでも、入植者が落ちつくと思われる他の場所について測量を続行されたい。その際には、新しい地区において設定される区画線が、古い区画線から1マイルの倍数の間隔となるように注意されたい。

オクスレイが彼の配下の測量官に与えた以上のような指令書と作製された地図類によって、1マイルの方格プランが次のようにして設定されたことが知られる。

- ① ハンター川流域、バサースト付近、ショウルヘブン沿岸、アーガイル郡において方格プランが設定されたが、いずれの場合も火急の必要にせまられて、測量と区画が実施されている。
- ② 4地域のそれぞれに方格線の基準点が設置されたが、アーガイル郡の例が端的に示しているように、経緯度の測定を行なっていない。²⁴⁾
- ③ 第4図の例から知られるように磁北をそのまま方格の南北線として使用している。²⁵⁾
- ④ 1マイルの方格は設定されていても、主要な河川沿いでは、河川の方が境界として優先している。
- ⑤ タウンシップの区画は設定されているが、厳密な6マイル四方を厳守していない例が多く、また土地の割りふりや保留地の設定などについても、規則性よりも、自然条件が重視された。

このようにして実施された結果が、第2図や第4図に見られるような方格プランであり、両図ではタウンシップ内の番号のつけ方も異なっているように、それぞれがローカルな性格を有した不完全な方格プランであった。ブリスベーンの指令によって導入された北米式のタウンシップであったが、本来のタウンシップ・システムに比べる時、その統一性・規則性においても、

24) このような基準点の性格については、すでに D. N. Jeans (ibid., 10)) が指摘している。

25) 磁北を使用することは、この後についても同様であったが、この場合の偏差がもたらす混乱については、J. M. Powell がビクトリア州西部の例について具体的に論じている (The Public Land of Australia Felix, Melbourne, 1970, pp. 41-48)。

測量の方法や精度においても、オーストラリアのそれは著しく応急的なものであった。しかも、オクスレイがこのような方格プランを実施している時、ロンドンではすでに植民地担当国務大臣バサースト (E. Bathurst) を中心に別の構想が練られていた。

3. バサーストの指令とパリッシュへの転換

a ビッグ報告書とバサーストの指令

ビッグの報告を受けたバサーストは、第1報告書について1822年9月9日付で、第2・第3報告書²⁶⁾について翌年7月31日付で急送公文書をブリスベーン宛に記し、同時に報告書そのものも伝達した。後者において、バサーストは報告書の頁を示しながら内容の要点を示しているが、オクスレイが提言した新しい土地政策・測量システムについては次のように受けとめている。

「入植者への土地の割りふりを容易にするという見地からする各郡の測量と区分・細区分がなされるべきであること、ならびに、入植者に対してそのような測量・区画の地図を調べる権利を与えるべきことが強く勧告されている。さらに、王領地のすべての譲渡が登記されるべきこと、登記されていないならばそのような土地の譲渡がすべて合法ではないとすべきこともあわせて述べられている」。

バサーストとブリスベーンとの間で、これ以後何回かの意見の交換が行われ²⁸⁾、ロンドンの政府部内においても審議が加えられて、1824年11月3日までにほぼ新政策の決定をみたようであり²⁹⁾、若干の手なおしを経て翌年1月1日付で正式に公文書が作製され、6月30日にはブリスベーンの手元に届いた³⁰⁾。その内容は34カ条からなる膨大なものであり、土地区画に直接かかわるつぎのような条項を含んでいる。

「3. ニュー・サウス・ウェルズとバン・ディーメンズ・ランド (Van Diemen's Land)

26) Bigge Reports は次の3部からなる。

- 第1) Report of the Commissioner of Inquiry into the State of the Colony of New South Wales. Commons paper 448, ordered to be printed 19 June 1822.
- 第2) Report of the Commissioner of Inquiry on the Judicial Establishments of New South Wales and Van Diemen's Land. Commons paper 33, ordered to be printed 21 February 1823.
- 第3) Report of the Commissioner of Inquiry on the State of Agriculture and Trade in the Colony of New South Wales. Commons paper 136, ordered to be printed 13 March 1823.

27) Earl Bathurst to Sir Thomas Brisbane, 31 Jul. 1823. Historical Records of Australia, series I. Vol. XI, pp. 95-102. 所収。以下同書を H. R. A. I-XI のように略記する。

28) Earl Bathurst to Sir Thomas Brisbane, 1 Jan. 1825. H. R. A. I-XI, pp. 434-444. この冒頭に経過を略記している。

29) Earl Bathurst to Sir Thomas Brisbane, 3 Nov. 1824. H. R. A. I-XI, pp. 925-930. ただし、これは草稿であり、このまま発送されたものではない。

30) 前掲28)。なお、D. N. Jeans は township から parish への転換を1826年としている (前掲10)) が、1825年中には、指令が届いており、後述のように同年実施されている。

の全領域を郡 (County)・ハンドレッド (Hundred)・パリッシュ (Parish) に一般的に区分するのは最も重要性の高い政策である。それは一般的な改善のための他のあらゆる計画と共に、もしくは先行して実施されねばならない」。

「6. この権限において、貴下は担当長官に全植民地を以下のように区分するよう指示されたい。まず、できるだけ40マイル四方に近い広がり郡に区分し、各郡は100平方マイルにできるだけ近い面積からなるハンドレッドに、各ハンドレッドはさらに、25平方マイルにできるだけ近い面積からなるパリッシュに細分するものである。

7. ここに提示された郡・ハンドレッド・パリッシュへの分割においては、貴下は担当長官に対し、領域の主要な自然的境界のすべてに関心を払うよう訓令されたい。自然的境界とは、大小の河川や高地その他で形成されているものであり、郡・ハンドレッド・パリッシュの面積における規則性を犠牲にすることがあっても、すべての場合において明瞭で確実な境界線を選択するものとする。ただし、すでに述べた正確な面積に可能な限り近づけるよう、貴下が全体として訓令することを条件とするものである。

8.すでに郡に分割されている部分についても、この新しい測量・区画の対象に含めるものとする」。

「9. 測量・区画の進行に応じて、担当長官は貴下に時々進捗状況を記した定期報告を提出することとされたい。この報告書は、担当長官が測量・区画を完了した各郡・ハンドレッド・パリッシュの境界を、可能な限り正確に記入したものでなければならない。この報告書の作製に際しては、区画图あるいは地図を添付し、各郡・ハンドレッド・パリッシュの正確な境界に疑問や不確かさが伴わないよう細心の注意が払われねばならない」。

「29. 土地は1,920 エーカーの区画で販売に供されるものとするが、場所柄あるいは特殊な状況下において必要な際には変化に従うものとする。このようにして販売に供される区画の不確かさや混乱を防ぐために、そしてもちろん他の重要な目的のために、測量・区画・評価担当の長官には分割線を伴ったパリッシュ毎の区画图を準備することが要請される。その分割線によって全領域が640 エーカー毎の土地区画に区分されるものとする。区画图には別表を付して、その区画線に従った自然もしくは人工の目標物を示し、640 エーカーの各区画はパリッシュ図に番号を付して示すものとする。土地の入札や販売はすべて、その土地が存在しているパリッシュの公図を参照してなされるものとする」。

ここにおいて、「便利なる規模と広がりタウンシップ」の設定を指示した歴代総督への従来の訓令とは異なり、40マイル四方の郡、100平方マイルのハンドレッド、25平方マイルのパリッシュの設定を規定し、その境界線については自然境界を使用することを求めている。ニュー・サウス・ウェルズ植民地における行政単位と土地区画に関する政策は、この時点で全面的に改められたことになる。この急送公文書の約2カ月前にあたる1824年11月3日付で準備され

た草案の場合には、郡・ハンドレッド・パリッシュという単位名称あるいは1マイル四方の640エーカーの基本区画については全く同様であるが、草案の内容は20カ条からなっており、細部の手直しとともに大幅に補充が加えられていることも知られる。³¹⁾

このバサーストからの新しい指示が届く3年余り前、すでにブリスベーン総督の判断によって、オクスレイは1マイルの方格区画と「6マイル四方のタウンシップ」を設定し始めていた。バサーストの指示にあるパリッシュは5マイル四方、ハンドレッドは10マイル四方、郡は40マイル四方であるから、新設のパリッシュはタウンシップより一まわり小さいことになる。しかも、第8条にあるようにこの3種の区画は新設の郡あるいは未開地だけでなく、既設の郡内においても実施すべきことが規定されていることにも注意しておかねばならない。すでに述べたように、ブリスベーンの着任以前の1821年9月26日の段階で、すでにカンバーランド(Cumberland)郡の境域と内部の31地区(district)およびノーサンバランド(Northumberland)郡3地区が確定・公示されていたし、³²⁾それ以後、ハンター川流域、バサースト付近、ショウルヘブン付近、アーガイル郡の測量・区画が進行していたことは前述の如くである。バサーストの新指令が発された頃までには、第2図のようにハンター川流域や、第4図のようにバサースト付近のウェストモアランド郡・ロクスバラ郡の一部に、すでにタウンシップが設定されていた。³³⁾バサーストの新指令はこのような旧来の部分の再編をも要請するものであり、未開地・未入植地における新指令の実施の状況について検討する際には、あわせてこの再編についてもみていかねばならない。

ところで、前述のようにブリスベーンは、この新指令を6月30日に受けとった。彼は前年からすでに総督府官房長ゴールバーンとの意志の疎通を欠き、時にブリスベーンの指令が実施されない場合も招来していたが、やがて、両者とも本国に召還されることになり、11月にはシドニーを離れた。³⁴⁾従って、新しい土地区画の実施は、ブリスベーンの下で始まってはいるが、新総督として翌月シドニーに着任したダーリング(R. Darling)が本格的に推進することになる。³⁵⁾

b ダーリングとオクスレイの対応

31) 前掲29)。

32) 金田、前掲2)。

33) H. R. A. I-XI, p. 930 において、Bathurst の新指令が出された当時の既設郡を Cumberland, Westmoreland, Camden, Argyle, Northumberland の5郡としている。Camden 郡はすでに1817年の地図(W. C. Wentworth: Map of New South Wales, Containing the District of Port Jackson, Coal River, Illawarra or the five Islands, and the Country to the Westward of the Blue Mountains. London. 1820)に記されているから問題はないが、第4図が示すようにロクスバラ郡を加えるべきであり、6郡とすべきであろう。

34) J. D. Heydon *ibid.*, 9)。

35) ただし、Oxley が1825年8月29日付の文書(Surveyor-General Oxley to Archdeacon Scott. H. R. A. I-XII, pp. 392-395)などで Cumberland 郡と Camden 郡内の“District or Parish”という使用をしていることからみて、新指令は Brisbane の下で実行され始めたと考えてよい。

新しく着任したダーリング総督は、1825年7月17日付の勅令を受けとった。³⁶⁾ フィリップ (A. Phillip)³⁷⁾ からブリスベーンに至る歴代総督への勅令が類似した内容を有していたのに対し、この勅令は画期的な変革を指示したものであった。ニュー・サウス・ウェルズ植民地の範囲を西へ拡大して東経129度までとすると共に、南を南緯39度12分までとしてバン・ディーメンズ・ランドを分離し、また、ブリスベーン総督の下で進められ始めてきた植民地行政の民政化を一層推し進める内容³⁸⁾を有していた。執行委員会 (Executive Council) が創設され、限定された機能であったものの立法委員会 (Legislative Council)³⁹⁾ も成立することとなった。土地区画についても次のように、執行委員会の賛同の下に様々な単位を設定する権限が与えられた。

「そしてなるが故に、朕は、上述の職権において、貴下が執行委員会の助言と同意を得て、朕の上述のニュー・サウス・ウェルズとそれに付属する領域をディストリクト (District)・郡・ハンドレッド・町 (Town)・タウンシップ・パリッシュに分割し、その境界をそれぞれ定めて公示する権限を与え、ゆだねるものである」。

基本的な権限はこのように多様で広範囲に及ぶものであったが、続くパラグラフにおいては上掲のバサーストの指令とはほぼ同文・同内容が記されており、実質的にその実施を要請している。前掲のバサーストの指令の第3・6・7条に示された郡・ハンドレッド・パリッシュへの分割とそれぞれの面積ならびに自然的境界の使用についてはほぼ同文が掲げられている。また、第8条に示された新区分の既設郡への適用、第9条における報告の義務、第29条に記された1マイル方格線やパリッシュ内部の区画番号、あるいはパリッシュ図を公図として土地行政の基本とすることなども同様である。先に植民地担当國務大臣から発令された内容を、改めて勅令の形で示したものと、基本的に考えて大過ないであろう。この勅令はさらに、既入植地に設定済の王領地の評価、聖職者と学校経営のための土地の設定を求めており、また王領地の販売や下付の方法についても従来とは大きく異なった指示をしている。

このような内容を受けて、その実施にあたった測量長官オクスレイは、新しい規定に従って、間もなく新任総督ダーリングに対し、44カ条に及ぶ報告書を提出した。⁴⁰⁾ 報告書ではまず、従来の経過を述べているが、ブリスベーン時代に実施した方格プランについても、つぎのように記している。

「私は本植民地の測量・区画を実施して郡・タウンシップおよび1平方マイルのセクションに区分し、各タウンシップには、将来の中心集落 (Village) などとして最も可能性の高

36) Governor Darling's Instruction. H. R. A. I-XII, pp. 107-125.

37) 金田, 前掲2).

38) H. R. A. I-XII, Note 34, pp. 813-814.

39) Legislative Council の権限と構成メンバーは1828年に議会を通過した新法 (9 Geo. IV, C. 83) によって拡大された (K. A. Townley: Darling, Sir Ralph, in D. Pike ed., Australian Dictionary of Biography Vol. 1. Melbourne, 1966).

40) Surveyor-General Oxley to Governor Darling, 26 Jan. 1826. H. R. A. I-XII, pp. 379-389.

い場所に4平方マイルもしくは2,560 エーカーの保留地を設定するよう指示されて来ました。これらの保留地の設定は当時においては、教会や学校の維持費用にあてるものとは計画されておりました。私の裁量で遂行しましたこのような測量・区画は、不幸にして著しく退屈で際限がないものでありました。イングランドから到着する入植者が、彼らの下付地に入れないという不都合を被ったり、それが遅れたりしないように尽力致しました」。

すでに指摘したように、1マイル方格のセクションとタウンシップの区画の設定が極めて緊急の処置であったことを測量長官自身が認め、さらに保留地の設定目的が主として中心集落などの用地確保にあったので、教会や学校の財政基盤のために設定されたものではなかったことなどを述べている。このように、1825年後半における土地政策の変更はほかにも従来の政策との継続を保つための若干の問題をなげかけることになった。同じ報告において、オクスレイはこの点についてさらに次のように記している。

「これらの土地の存在は知られていましたが、それぞれの下付地の境界線はまだ、面積にして少なくとも全体の半分が画定されないままでありました。しかしながら、それぞれのタウンシップ予定地において、タウンシップの予定面積の7分の1もしくはこれに近い面積を保留地とすることに留意致しました。このような例外のほかは、入植者はそれぞれの仕事に最も適していると想像するような場所において、自分達の土地を選択することが許可されました」。

「私は従いまして、目下の状況におきましては、次のように致しましても訓令の御意図と相容れないものではないであろうことを申し上げたいと存じます。それは、現在各パリッシュにおきまして、面積にして7分の1に当る分を保留地としておりますが、その土地を聖職者達への下付地を含めることであります。この処置はわずかの付随的な混乱をひき起こすのでありましょう。しかし、土地が指示どおりに正確に区分されておりさえしますれば、この移管は可能な限り規則的に行われ、土地の境界は明確に画定されて記録用地図に記入されるものであります」。

実務上の責任者としてオクスレイはこのように、従来の施策と新しい訓令との接点を求め、また新しい訓令の効率的な実施のためのいくつかの提言を示している。しかし、6マイル四方のタウンシップの区画から5マイル四方のパリッシュへの転換については、彼は何らの問題点の指摘も行わないまま、上掲の報告のようにタウンシップとパリッシュの両方を全く同義のように混用している。

「本植民地の現在のいくつかの区分の状況について、最も憂慮して検討した結果、私は閣下の訓令のうちの領域を郡やパリッシュなどに分割する点については、何らの防げもないと存じます」。

と、しているのである。すでに先にみてきたように、タウンシップ自体が必ずしも厳密に6マ

イル四方の正方形に設定されていなかったことを考え合わせると、これをこのままパリッシュ⁴¹⁾に読み替え得ると判断した結果であろうと考えられる。

ダーリング総督への勅令の実施をめぐる検討を加えた土地委員会は、このオクスレイの報告書をもふまえ、測量・区画を実施する地域の優先順位や教会・学校財産についての勅令の実施をめぐる問題点などについて総督に答申しているが、郡・ハンドレッド・パリッシュの区画⁴²⁾についてはオクスレイと同様にその実施の必要性を次のように指摘しているに過ぎない。

「勅令の執行に関して次に重要となることがらは、本植民地を郡・ハンドレッド・パリッシュに区分し、すべて未開・未入植の土地の評価をするために任せられた責任者が、可能な限り迅速に、また販売および下付による土地の需要に合わせて、その重要な責務の執行に努めるべきことにありましょう」。

すなわち、新しい行政区画もしくは地域区分については全く問題が示されていないのであり、前掲のバサーストの指令の第29条を受けたところのパリッシュ図を整備し、パリッシュ内部の1マイル四方の区画に番号を付すことなどの規定についても、同様に全面的に容認している。

ダーリングは1826年7月22日付で、勅令の実施に関する問題点と実施細目をバサーストに書き送って裁許を求めた際に、上述のオクスレイの報告書および土地委員会の答申を添付している。バサーストは翌年4月2日付でこれに返答しているが、特に異議のなかった土地区画⁴⁴⁾についてはむしろ変更を加えなかった。ただし、地図の扱いなどについては、次のように一層明確な指示を発令することとなった。

「担当責任者と測量長官がパリッシュの測量・区画と評価を完成した際には、官報に公示を掲載せねばならない。公示には販売する区画の番号を記載し、販売用の土地の平均価格と、各パリッシュおよび各区画の範囲と境界を示した1平方マイルの区画ごとの付表を添付するものとする。付表に添えられる区画図は測量庁において一般の閲覧に供され、同時に総督府官房においても写しが掲示されるものとする」。

このように、郡・ハンドレッド・パリッシュという区画は、少なくとも行政上は何の問題もなく受け入れられた。ところがこれらについては、土地区画もしくは地域区分の単位として面積基準が定められているほかには、全く説明が加えられていない。しかし、ハンドレッドは中世のウェルズにおいて、ほぼ実質的な村落に相当するビル（Vill）あるいはタウンシップ⁴⁵⁾100程度で構成され、集会場を有した領域単位であり、南イングランドでも類似の状況であった。

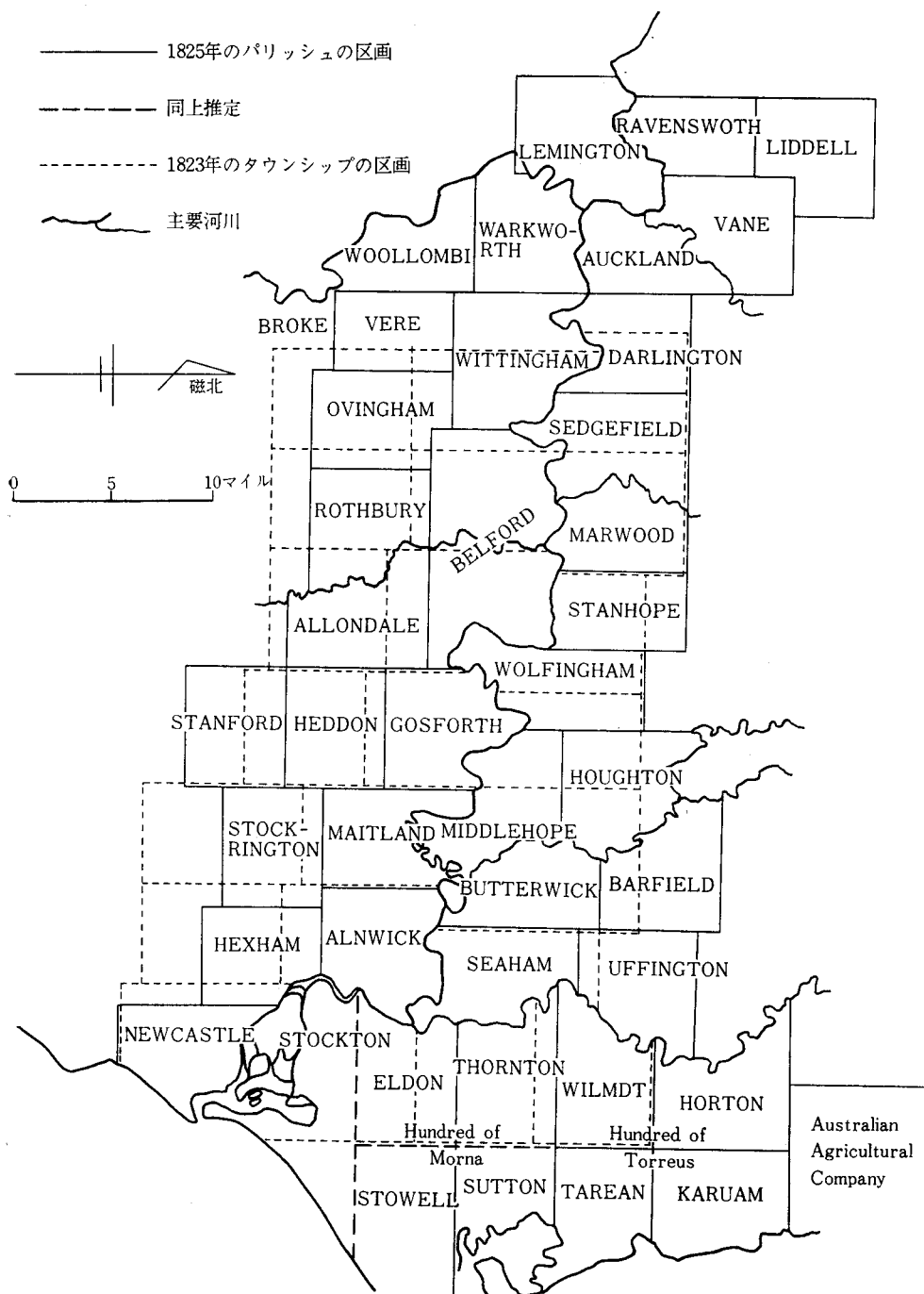
41) この点については、後掲の実例によって、明確に確認することができる。

42) Members of Land Board to Governor Darling, 11 Mar. 1826, H. R. A. I-XII, pp. 406-413.

43) Governor Darling to Earl Buthurst, 22 Jul. 1826. Enclosure No. 4 and 6. H. R. A. I-XII, pp. 379-413.

44) Earl Bathurst to Governor Darling, 2 Apr. 1827. H. R. A. I-XIII, pp. 219-230.

45) G. R. J. Jones: Multiple Estates and Early Settlement, in P. H. Sawyer ed., Medieval Settlement. 1976. London. Book of Iorwerthによれば Wales では 1 hundred = 25,600 acres (7,600 statute acres) が標準モデルとされている。



第5図 ハンター川流域におけるタウンシップ（1823年）からパリッシュ（1825年）への転換（1823年のタウンシップは第2図（注16），1825年のパリッシュは注49）の地図による。）

ハンドレッドは同時にいくつかの教区 (parish) に区分されており、この教区は、17世紀末ごろからは実質的な最下位の行政単位となっており、1821年にはその総数が10,693に達していた⁴⁶⁾。従って、明確な規定はないとしても、当時の英本国の実体をふまえたものであることは当然であり、オーストラリアに導入されたパリッシュは、一定数の人々が入植した時には、イギリス的な行政単位とすることができる単位であった⁴⁷⁾。ただし、「それぞれのすべての郡において、すべての土地の面積および価値の7分の1からなる土地を、以後各郡の聖職者および学校領地と呼び、周知させることとする⁴⁸⁾」、と規定されているように、少なくとも当初においてはパリッシュごとに教会や学校を設定するような指示はされておらず、郡を単位としていた。すなわち、パリッシュもハンドレッドも、将来はともかく、当初においては必ずしも実質的内容を付与されたものではなく、前掲のオクスレイの報告のように、すでに設定し始めていたタウンシップをパリッシュにルーズに読みかえることが可能となる余地が存在した。

c タウンシップからパリッシュへの転換

1825年のハンター川流域の地図には、第5図のように⁴⁹⁾、第2図に掲げた1823年のタウンシップと類似した区画が描かれている。各区画が主要河川と1マイル方格線を境界としていることも、各区画に逐一固有名称が付されていることも1823年段階と同様である。ただし第5図から知られるように区画数は42であるから、2年前の23に比べ著しく増加しており、しかも一般にその面積が小さくなっている。後のグロスター (Gloucester) 郡に相当する第5図下端の部分に2つのハンドレッド名 (Morna, Torrens) が記されていることからみても、この図は前掲のバサーストの指令以後に作製されたものと考えられる。従って、特に凡例は付されていないが、42の区画はパリッシュに相当すると考えて間違いのないであろう。バサーストの指令がブリスベン総督の下に届いたのが、前述のように1825年6月30日であるから、この年の後半に指令は早速実施されたと考えてよいことになる。しかも、1823年図のタウンシップの区画と比べると、ほとんど同一名称のパリッシュが描かれているが、各区画は多くの場合、6マイル幅か

46) S. and B. Webb: English Local Government from the Revolution to Municipal Corporation Act; The Parish and County. London. 1906. pp. 9-16.

各 Parish には Churchwarden, Constable, Surveyor of Highways, Overseer of the Poor など様々な由来の役人がいた。

47) D. N. Jeans: An Historical Geography of New South Wales to 1901. Sydney. 1972. p. 106.

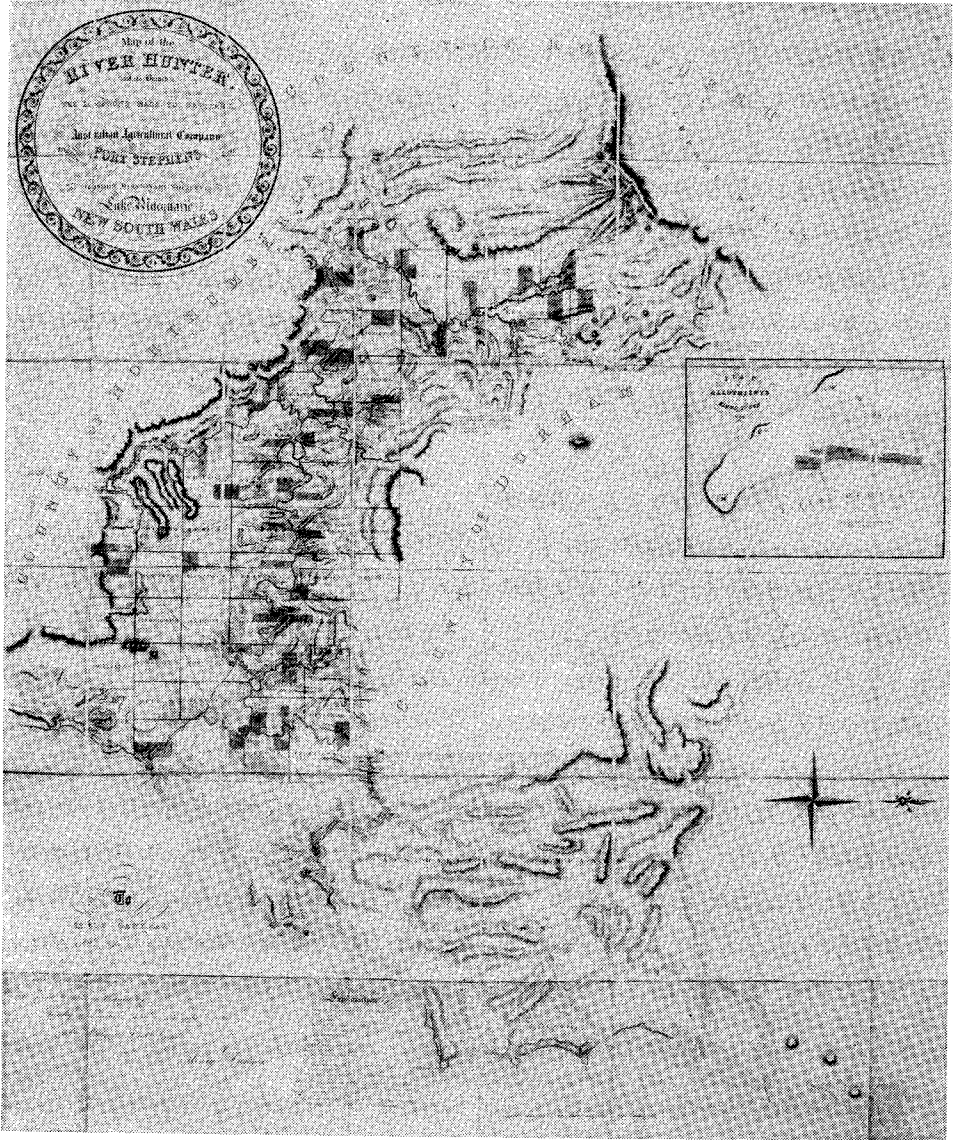
48) Governor Darling's Instruction, ibid., 36).

49) Plan of the Lands Located at Hunter River, New South Wales, 1825. A. O. N. S. W. 52410-52411.

なお、同図には1830年までの書き込みがあるが、少なくとも、パリッシュやハンドレッドについては1825年段階のものと推定される。

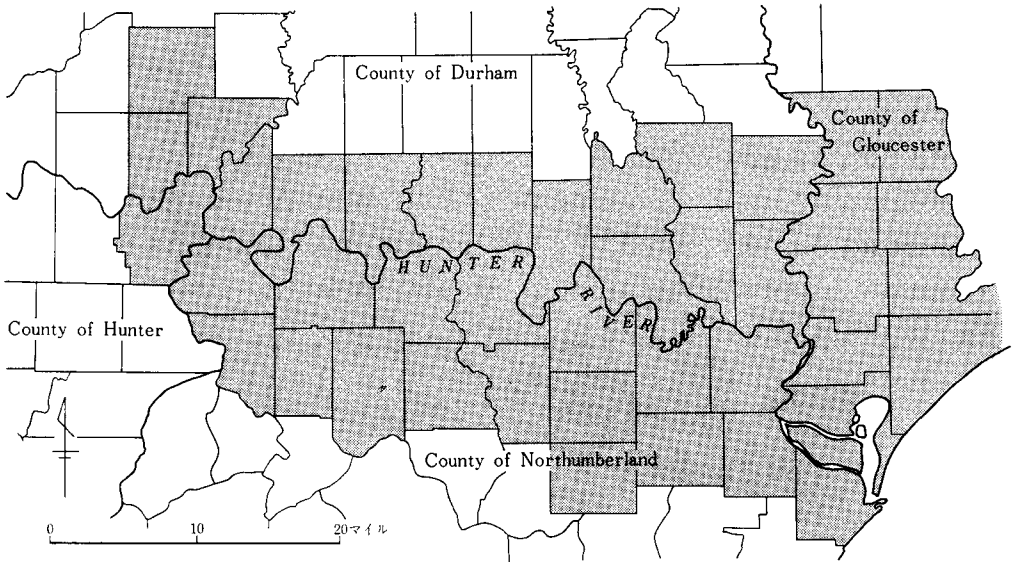
50) 第5図から知られるように、区画名があっても区画線が描かれていないものもあるが、ここではそれも含めた数を示した。

51) 2例が全く新しい名称となっている (Maitland←Morpeth, Belford←Branxton) ほかは、全く同一かもしくは綴りのわずかに一部に変更がみられるだけである。



第6図 1828年ダンガー作製図（注53）

ら、一方だけでも5マイル幅となるように変更されていることが知られる。オクスレイは全体として前述のようにタウンシップとパリッシュを混用し、そのルーズな読み換えをしていたようであるが、ここでは可能な限り標準面積の25平方マイルに近づけるよう改変されたと考えられることになる。1823年図と同様に、この1825年図の場合も全面に1マイル方格が描かれているが、前者の場合、各タウンシップ内にセクション番号が付されていたのに対し、後者では、



第7図 1857年におけるハンター川流域のパリッシュと1825年設定のパリッシュ
(1857年のパリッシュは同年の郡図(注54)), 1825年設定のパリッシュ(アミの部分
は注49)の地図による)

東南隅のニューカッスル(Newcastle)付近にだけパリッシュの区画とは合致しない旧タウンシップ内の番号が記されているのみである。同図にはさらに河口の北側に聖職者および学校領地が描かれ、その東側には、1824年にオーストラリアで最初の生産活動を営む事業会社として設立されたオーストラリア農業会社(Australian Agricultural Company)⁵²⁾の下付地をも記載している。

ところがこれから3年を経た1828年にロンドンで刊行された地図⁵³⁾では、再びパリッシュの区画は大きく異なっている。第6図のようにダンガーが作製した同図では、ハンター川流域の平坦部のほぼ全域にわたって55のパリッシュの区画が描かれており、第5図のような1825年の状況よりも、むしろ第2図のような1823年図の状況に近い区画を示している。同図の凡例にパリッシュと明記された各区画は、1823年段階よりもさらに規則的な6マイル四方の方格となっている。従って、この図が正しいとすれば、パリッシュの区画は再び編成替されて、プリズペーンの指令によるタウンシップの区画に近い状態となったことになるが、これには次のようになお検討すべき余地が残されている。

さて、第7図は1857年のノーサンバランド郡・ダラム(Durham)郡・ハンター(Hunter)

52) 山中雅夫：オーストラリア農業会社1824—1825——オーストラリア企業経営前史——『オーストラリア研究紀要』No.9, 1984.

53) H. Dangar: Map of the River Hunter and its Branches, shewing the Lands reserved thereon for Church purposes, the Locations made to Settlers, and the settlement and the Lands of the Australian Agricultural Company at Port Stephens, New South Wales. 1 Aug. 1828. London.

郡の地籍図⁵⁴⁾から、ハンター川沿いの平坦部及びその周辺一帯のパリッシュの境界をぬき出したものである。同図から明らかに知られるように、1857年の段階におけるパリッシュの区画は、1828年のダンガー作製の地図よりは、第5図のような1825年の地図を踏襲しているようであり、このパリッシュは地籍図の単位として現在まで基本的に大きな変化がない⁵⁵⁾。しかも、1828年のダンガー図に記載されたパリッシュの名称55のうち、1857年図において同一もしくは類似した名称が知られるのは33例でしかない⁵⁶⁾。ところが、1825年図の場合、同図に記された42のパリッシュ名はすべて、1857年図に踏襲されている。すなわち、1825年図はハンター川流域における測量・区画の実施・再編のプロセスを正確に示していることになるが、1828年のダンガー図は間違っただけのパリッシュの区画もしくは特異なそれを示していることになる。しかし、ダンガーは前述のように、オクスレイの指示を受けて、ハンター川流域において1マイル方格の区画とタウンシップの区画を設定した測量官であり、1827年3月31日までその任にあったから⁵⁷⁾、このような状況ははなはだ理解しにくいことになる。

ところで、この1828年のダンガー図は、同年やはり彼によって執筆され、出版された128頁に及ぶ移民のためのガイドブックと対になったものと考えられる⁵⁸⁾。ダンガーは同書の表紙と冒頭において、1822年以来6年間にわたってオクスレイの下で第二測量官であったことを記し、郡やパリッシュについて次のように記している。

「ニュー・サウス・ウェルズの領域は、まさしくこの対象に関する国王の新しい規定に従って、40マイル四方の面積を擁する郡に分割されるものである。郡は1マイル四方のセクションに細分され、6マイル四方もしくは36平方マイルのパリッシュに区分される*。

*最近の規定では、パリッシュは25平方マイルもしくは5マイル四方を擁するように指示されており、その面積は適当な便利さという点にとっては余りに狭いものである。

国土を調査し、郡・ハンドレッド・パリッシュの境界を定めることは、総督が任命した3人の担当委員の責務となっている。これはしかし、すべての水流をたどって地図を作製し、完全に測量・区画を実施して1マイル四方のセクションの境界の標識を設定する、そしてさ

-
- 54) Map of the County of Northumberland, Map of the County of Durham, Map of the County of Hunter, 1857. M. L. County map.
- 55) 1857年段階のパリッシュと、現在のそれ (Map of the County of Northumberland, 1950, etc. Lands Department, New South Wales.) とを対比すると、現在区画の方が細かな屈曲が多くなっているが、土地が分割され、大半が販売・下付済のパリッシュについては細部を除けば基本的に1857年段階と現在との間に大きな違いはない。
- 56) しかも、このうちの3例は、全く異なった場所のパリッシュ名となっているものであるから、確認できる同一名称の実数はさらに少なくなる。
- 57) N. Gray: Dangar, Henry. in D. Pike ed., Australian Dictionary of Biography, Vol. 1. 1966. Melbourne.
- 58) H. Dangar: Index and Directory to Map of the Country Bordering upon the River Hunter; The Lands of the Australian-Agricultural Company; with the Ground-Plan and Allotments of Kings Town, New South Wales. 1828. London. 両者共に発行者は Joseph Cross で同一人である。

らに地域の容貌を描写するという、土地測量者のより重要で、何より労力の必要な仕事が行われる前に完了するものではない。

私の地図に描き、私が特別の解説をしようとしている地域の測量・区画などはその後さらに進展しているが、前述の責務を遂行するためには、担当委員がまだ* やってきていない。

*1827年8月。

従って、この索引において名付けられたその地方の境界線はまだ正式には画定されたものではない。

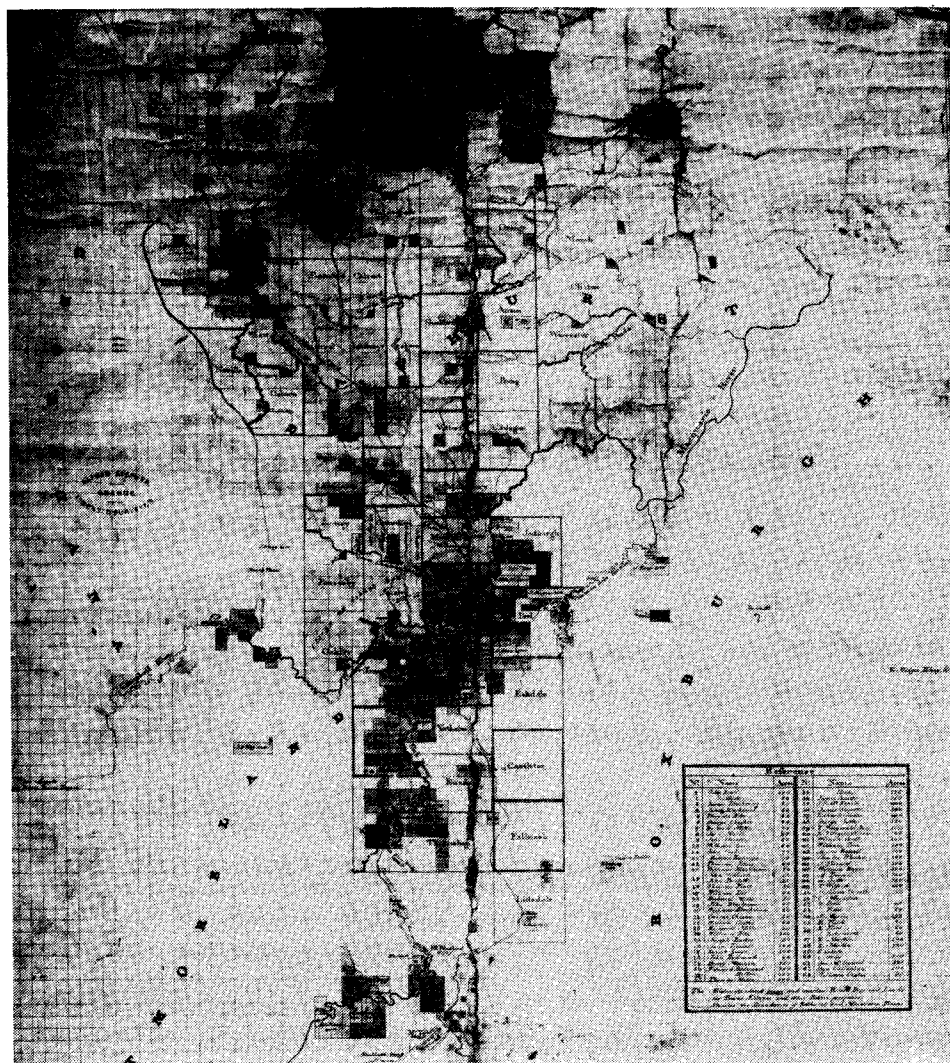
「パリッシュの境界の決定も、郡と同じように、土地担当委員の仕事である。それは、私がすでに観てきたように、6 マイル四方の面積を擁するように指示されているものである。パリッシュの形態はしかし、全航行可能河川やその他の水流をパリッシュの境界とするために、正確に計画どおりではない。それ故に、河川が境界となっていてところは不規則であり、面積には指示に比べ多少大小がある。パリッシュの範囲は、そのような水流に接していない場合、私の地図に描かれているようにまぎれもなく均一的に36平方マイルないし23,040エーカーである。西はレミントン (Lemington) とラベンスワース (Ravensworth) までの全パリッシュは、ほぼそれらが現在存在するように描かれており、トーマス・ブリスペン卿の総督在職中に命名されたものである。それらの名称は一般に地理的ではないが、英国の各郡の町や村に合致するものであり、そのような名称は太平洋岸まで続いている。

ハンター川流域地方では、ラベンスワースとレミントン以西については、パリッシュは地方政府によって画定・命名されていない。私はそこで、画定済および未画定の土地についてよりよく述べるができるようにするために、トーマス・ブリスペン卿の政府の下におけると同様の原理によって、東の地方で画定されているパリッシュの区画と決定された名称の様式を継承した。

私は、ここに描いたようにパリッシュの境界が画定されるとは思っていないし、それが誰をも影響するものではない。私の目的は単にこれらの土地を参照し易くすることだけである」。

ダンガー自身が以上の如く述べているように、第6図にはすでに画定していた「パリッシュ」に加え、彼個人の考えによって付加された部分が多いことになるから、前述のように後世のパリッシュとは相異点が多いことの理由についても理解できることになる。換言すれば、第6図に示された「パリッシュ」とは、ブリスペンの指令の下に設定されたタウンシップと、それを彼個人の考えで敷衍した部分とから成っていることになる。ダンガーは1827年3月31日までには測量官の任にあったし、この本の序文を書いたのは同年9月の本国に向う船上であった。しかし、実際に使用されているデータは1825年11月までのものであり、上掲の文中にもあるよう

59) 前掲書(注58)には Index to Map of Hunter's River という24頁に及ぶ表が掲載されていて、個々の下付地に関するデータを整理しているが、そのデータの最新のものが1825年11月である。



第8図 1829年におけるパサースト付近のパリッシュ
(1829年 P. L. Bemi 図(注61)), 部分)

に全くブリスベン総督時代の政策そのままである。名称だけはタウンシップではなくパリッシュとしているが、それを36平方マイルの単位としており、25平方マイルというパリッシュの面積規準を承知していながら、それについては批判的でさえある。彼は1824年以来、測量官としての本来の業務より私的な利益の追求に熱心であるとしてしばしば不評を買い、1827年に解任される以前においても、配置がえの命令を受けたこともあった⁶⁰⁾。第6図が1828年に刊行された地図であるにもかかわらず、1825年における一連の新しい土地政策を無視したような結果となっている背景には以上のような状況があったとみられる。

1828年のダンガー図は、このように特異な経緯を反映した地図であるから、ハンター川流域では、1823年図（第2図）、1825年図（第5図）、1857年地籍図（第7図）へと、測量・区画が進展したことになる。1822年以来設定された6マイル四方を原則とするタウンシップは1825年後半に至って5マイル四方を原則とするパリッシュに再編され、それが拡大・定着していったプロセスを確認することができる。

一方、やはり前掲の第4図のように1824年には14のタウンシップが設定されたウエストモアランド郡・ロクスバラ郡の西端付近では、1829年までには第8図のように西方へ向って測量・区画の実施が進んだ⁶¹⁾。ところが、西側のバサースト郡およびジョージアナ（Georgiana）郡では、磁北を基準として1マイル方格が設定されているという点では東側に続く2郡と同様であるが、パリッシュに相当する区画は比較的忠実に5マイル四方となっている。しかも、ウエストモアランド郡・ロクスバラ郡の部分のタウンシップとして設定された区画にはほとんど変更が加えられていない。ここではハンター川流域と異なり、タウンシップをそのままパリッシュと読み替え、新設の部分については5マイル四方の新しい原則を適用したことが知られる。1824年図（第4図）の各タウンシップ内の各セクションに付されていた番号が、29年図には全く見られなくなっていることにも、ハンター川流域と同様であるが、注意しておきたい。

このようにして、新しいパリッシュの設定が進行したが、新しい規定はバサーストの指令の第8条に示されているように旧来の部分、すなわちシドニー周辺のカンバーランド（Cumberland）郡などについても適用されるべきものであった。つぎには、同郡に視点を移してみたい。

d 郡・ハンドレッド・パリッシュの設定と実体

ノーサンバランド・ダラム・グロスター・ハンター・ウエストモアランド・ロクスバラ・バサースト・ジョージアナ各郡におけるタウンシップからパリッシュへの転換もしくはパリッシュの設定状況を検討してきたが、そこではパリッシュの設定にもかかわらず、グロスター郡南

60) N. Gray: *ibid.*, 57).

61) P. L. Bemi: Map of the County of Bathurst and Parts of the Adjacent Counties, together with the Parallel Line or sea Coast, and Roads thereto from Sydney, New South Wales. 1829.

第1表 カンバーランド郡におけるハンドレッドとパリッシュ (1835年)

*注63) による

*○印を付したハンドレッド・パリッシュ名は1821年の地区名(注, 64), および注, 2) の第2表参照) と同一もしくはほぼ同一のもの。

ハンドレッド	パリッシュ	ハンドレッド	パリッシュ
○Sydney	1~4. (名称記入なし, Sydney か) 5. Alexandria ○ 6. Botany ○ 7. Petersham 8. Saint George ○ 9. Concord	○Bringelly	○31. Cooke ○32. Bringelly ○33. Cabramatta
○Paramatta	○10. Hunters Hill ○11. Field of Mars ○12. Castle Hill ○13. Prospect 14. Saint John ○15. Liberty Plains ○16. Banks Town	○Evan	○34. Melville 35. Claremont 36. Mulgoa
Liverpool	17. Saint Luke ○18. Minto ○19. Holsworthy	○Richmond	○37. Castlereagh 38. Ham Common 39. Londonderry 40. Rooty Hill
Woronora	20. Sutherland 21. Wattamolla 22. Bulgo 23. Heathcoate	Windsor	41. Saint Matthew 42. Gidley ○43. Nelson 44. Pitt Town
Southend	24. Southend 25. Eckersley 26. Wedderburn	Hardinge	45. Maroota 46. Cornelia 47. Frederick
Campbell-Town	○27. Appin 28. Menangle 29. Saint Peter 30. Narellan	Dundas	48. Marvamarra 49. Berowra 50. North Colah 51. South Colah 52. Cowan
		Packenham	○53. Broken Bay 54. Gordon 55. Norrabeen 56. Manly Cove 57. Willoughby

端に相当する部分に2つのハンドレッド名が確認され、1843年頃には4つに増加しているほか⁶²⁾には、ハンドレッドは全く設定されていなかった。ところが、最も早くから入植・開発が進んだカンバーランド郡では、1835年までには全郡が第1表のように13のハンドレッドに区分されていた⁶³⁾。ハンドレッド設定の経緯は不明であるが、1833年のセンサスの為の地図にはほぼ同一

62) W. Baker: Baker's Australian Atlas. Sydney. 1843-6. Hundred 名は Avon, Gordon, Torrens, Morna の4つ。

63) T. L. Mitchell: Map of the County of Cumberland; Shewing the Parishes and Hundreds, 27 Mar. 1835. A. O. N. S. W. 6247. ハンドレッドについて、T. M. Perty は実施されなかつ

の範囲と名称を示したものがあり⁶⁴⁾、1834年5月にはバーク総督はその設定を報告している。従って、実質的にはこのころまでに使用されていた範囲をふまえたものである可能性が高い。

さて各ハンドレッドは、第1表のように3～9のパリッシュに区分されていた。合計57に及ぶ各パリッシュは極めて不規則な形態であり、面積もまた25平方マイルという標準規模に忠実に設定されたものではなく、大小様々である。このパリッシュ名を1821年に確定・公示された地区名⁶⁵⁾と対比すると、同年の地区名31のうち、同一名のパリッシュが19存在し、さらに4つがハンドレッド名と等しい。パリッシュ名の中には、1821年の地区名と同一とはいいいながら、全く別の場所のパリッシュ名となっているものも含まれてはいるが、ほかに名称が異なっているものもかつての地区とはほぼ同一の範囲を踏襲しているパリッシュ数ヶ所が含まれているから、パリッシュにはかつての地区の範囲を受け継いだものが相当数含まれていることになる。このことは換言すれば、パリッシュがそれ以前の地区の実体を継承したものであることを示していることになる。パリッシュは、ニュー・サウス・ウェルズにおいて、英国のような教区および行政単位として機能するようにはならなかったが、1835年にはカンバーランド郡で道路建設・補修の単位となるなど、⁶⁶⁾地籍図の単位としてのほかにも一定の地域的まとまりとしての機能は果たした。1835年までに確定されたカンバーランド郡のこのようなハンドレッドとパリッシュは、⁶⁷⁾1840年および1850年の段階においても、ウォロノーラ (Woronora) ハンドレッドがヒースコート (Heathcoate) と名称を変更しているほかはそのままであることからすれば、その機能は別として比較的定着度の高いものであったと考えるよいようである。

一方、郡の方もまたパリッシュと同様に設定が進み、1829年には入植対象地の範囲とその内部の19郡が第1図のように画定・公示された。⁷⁰⁾これらの郡は、現在も地域区分、地籍図の単位、統計の単位などとしての一定の役割を果たしているものの、英国におけるような政治単位・裁判所管区などとしての実体を持つに至らなかった。その最大の理由は、カンバーランド郡以外での人口の集積が不十分なためであったとされる。⁷¹⁾1840年にギップス (G. Gipps) 総督が警察

たとし、(注13), p. 51), スマイルズ (P. J. Smiles: The large scale cadastral map coverage in Australia, and the parish maps of New South Wales, The Australian Geographer, 10-2, 1966) はカンバーランド郡のみがハンドレッドを確定したとし、1888年に解消されたとする。

64) Maps for the Census of 1833, Districts of Parramatta, Liverpool, Campbell-Town and Windsor, A. O. N. S. W. 2221-2224.

Governor Bourke to Right Hon. E. G. Stanley, 5 May 1834. H. R. A. I-XVIII, pp. 417-419.

65) Public Notice, in Sydney Gazette, and New South Wales Advertiser, 27, Oct. 1821.

66) D. N. Jeans: ibid., 47), p. 106.

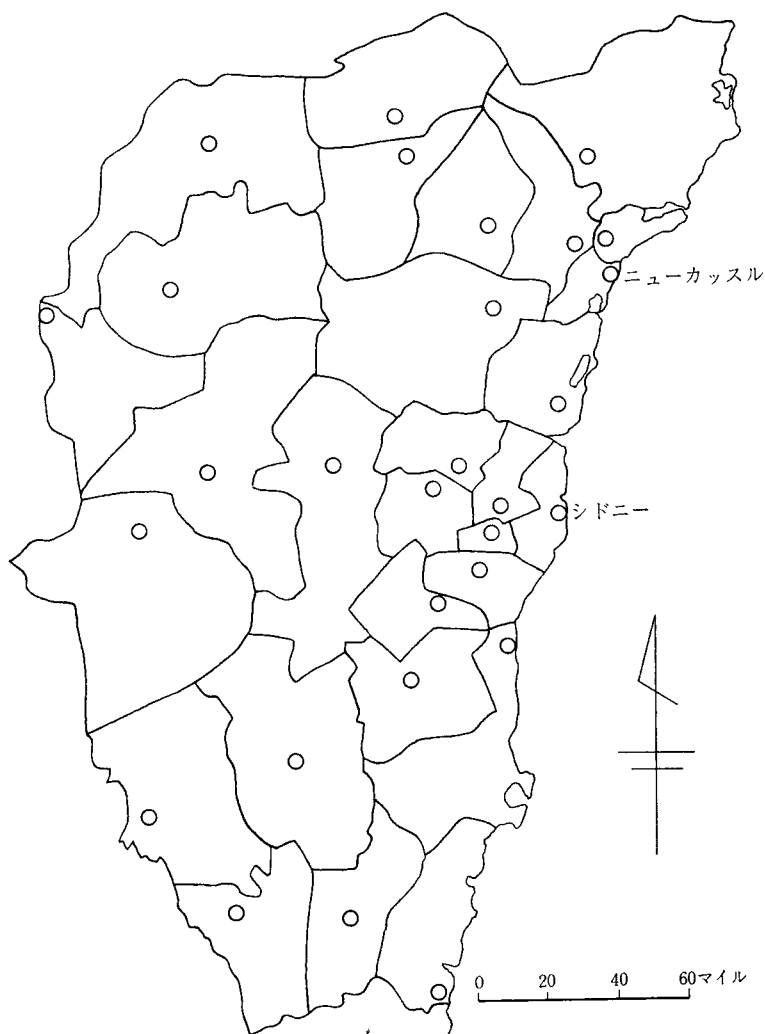
67) Cumberland Road Act, 9 Oct. 1835. 各パリッシュの家持居住者の2分の1の署名によって、道路・橋の補修を申請することができた。

68) W. H. Wells: A Map of the County of Cumberland in the Colony of New South Wales. ML. MT3, 811.1/1840/1.

69) W. M. Browning: Skelton Map of the County of Cumberland, N. S. W., M. L. M2, 811.1/1850/1.

70) Government Order, No. 50 Oct. 14, 1829. in Sydney Gazette, 17 Oct. 1829.

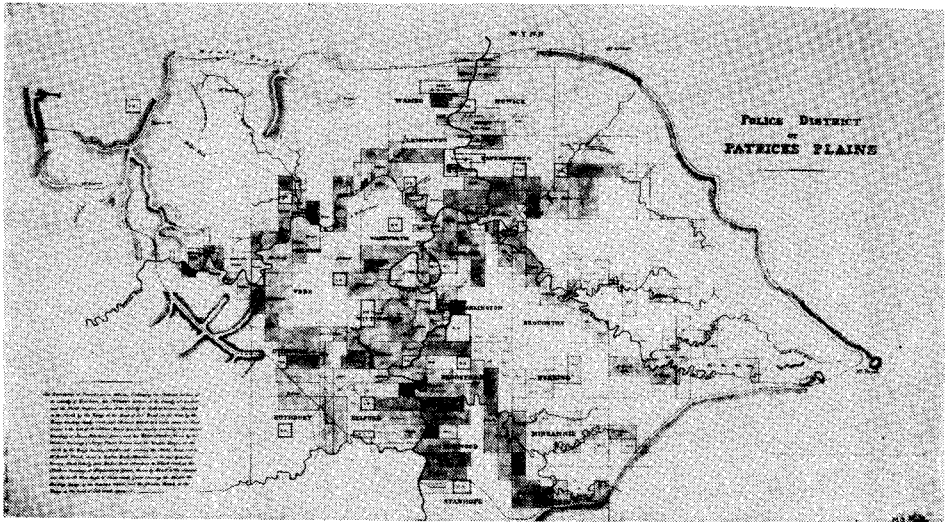
71) D. N. Jeans: ibid., 47) pp. 106-108.



第9図 ニュー・サウス・ウェルズにおける1840年の警察管区とその中心 (D. N. Jeano による)

管区を改正した際にも、第9図のように、その30の管区は郡を単位としてでなく、全く別の単位として設定された。⁷²⁾例えば、ハンター川流域のパトリックス・プレインズ(Patricks Plains)警察管区の場合、第10図のようにダラム郡中央部、ノーサンバランド郡北西部、ハンター郡北東部にまたがるハンター川とその支流の両岸である。境界は主として山嶺であり、パリッシュ

72) Government Gazette, 19 Aug. 1840, D. N. Jeans, *ibid.*, 47) p. 122 に地図化されている。



第10図 1846年のパトリックス・プレイン警察管区管内図（注73）

⁷³⁾
の区画さえ無視されている。

ギプスはさらに1843年に区会（district council）を設定するが、その際には郡よりもむしろ警察管区に近い単位が採用され、その数は28であった。⁷⁴⁾このような地域単位と郡・ハンドレッド・バリッシュとの不整合は、設定基準が異なることによっているのであるが、同時に郡・ハンドレッド・バリッシュなどが、いずれも未成熟な単位であったことを如実に示すものであろう。

4. 不徹底な方格プランとその破綻

a 方格プランに対するミッチェルの対応

すでにみてきたように、バリッシュ・ハンドレッドなどの地域区分は方格プランとしては極めて不完全なものであった。しかし、1マイル方格だけは、どの地図にもみられるように、土地区画の単位としてカンバーランド郡以外の各地で設定された。1821年にオクスレイ自身を含

73) Police District of Patricks Plains, 1946. M. L. M3, 811.24/1846/1.

74) Government Gazette, 26 Jul. 1843. において公示され、同年10月にロンドンへ報告された(Gipps to Lord Stanley, 7 Oct. 1843. H. R. A. I-XXIII, p. 182). 28のdistrict councilの名称は次のとおり。

Maitland, Windsor, Goulbourn, Yass, Patrick Plains, Scone-Murrurundi, Macquarie, Hartley, Bathurst-Carcoar, Parramatta, Penrith, Berrima, Sydney, Illawarra, Braidwood-Broulee, Queanbeyan, Merton-Muswellbrook, Campbelltown-Camden-Picton-Narellan, Paterson, Raymond, Terrace-Dungog, Grant-Port Phillip, Bourke-Port Phillip, Liberpool, Wollombi-Macdonald, Brisbane Water, Mudgee-Wellington, Cassilis, Newcastle.

めてわずか2人でしかなかった測量官⁷⁵⁾も、1822年には3人⁷⁶⁾、1827年には15人に増強されていた⁷⁷⁾。しかし、下付地が設定された部分以外の測量と地図作製はほとんど進展しておらず、1827年にミッチェル (T. L. Mitchell) が副長官として赴任すると間もなく、19郡の三角測量を開始し、翌年中には一応主要地形の調査を終えて郡界をほぼ確定した⁷⁸⁾。前述のような1829年の19郡の公示はこのようなにして可能となったものである。

ところが、ミッチェルが着任した翌年5月、一連の方格プランを実際に推進してきた測量長官オクスレイが没し、ミッチェルがその後任となった。測量長官の交代は、政策的には本来何らの変更にも直結するものではないが、これ以来長期にわたって測量・区画の責任者であり続けたミッチェルの個性が、後述するように方格プランについても様々な影響を及ぼすことになる。

さて、ミッチェル就任後の1831年の土地規定は、土地の競売システムと1エーカー当り5シリングという最低競売価格を設定したもので⁷⁹⁾、最低価格は1838年に1エーカー当り12シリング⁸⁰⁾に、さらに1842年には1ポンドに値上げされるが、19世紀中頃までの基本的な土地規定であった。この規定には次のように改めて1マイル方格の土地区画を明記している。

「1. バリッシュの測量・区画に関して必要な準備が整った際にはただちに、それについての区画图が測量庁において公開されるという公示を官報に掲載するものとする。その区画图には、区画图の境界、公共の保留地、既に専有されている土地、販売用に残っている土地などが示され、後者は測線によって1平方マイルないし640エーカーにできるだけ近いセクションに区画されているものとする。そのようなセクションは多くの標識によって識別され、各セクションの区画測線に合致する自然および人工の標識を指摘し、それらを記載した付表を伴うものとする」。

「24. 定められた境界内におけるすべての王領地は、賃貸に供される場合には、1平方マイルないし640エーカーにできるだけ近い区画ごとに、競にかけられるものとする」。

すなわち、販売の場合も、賃貸の場合も、1平方マイルの方格プランを原則としており、1825年のバーストの指令の第29条と基本的には同様の規準が敷衍されていることになる。⁸²⁾ 1843年から1846年の測量・区画の状況を集成したベイカー地図帳 (Baker's Australian Atlas)

75) Oxley to Bigge, 15 Jan, 1821. 金田, 前掲2)所収。

76) T. M. Perry: *ibid.*, 13). p. 43,

77) Return of the Department of the Surveyor-General of New South Wales on the 29th December 1827. H. R. A. I-XIII, pp. 666-7.

ほかに3人の製図官と2人の事務官がいた。

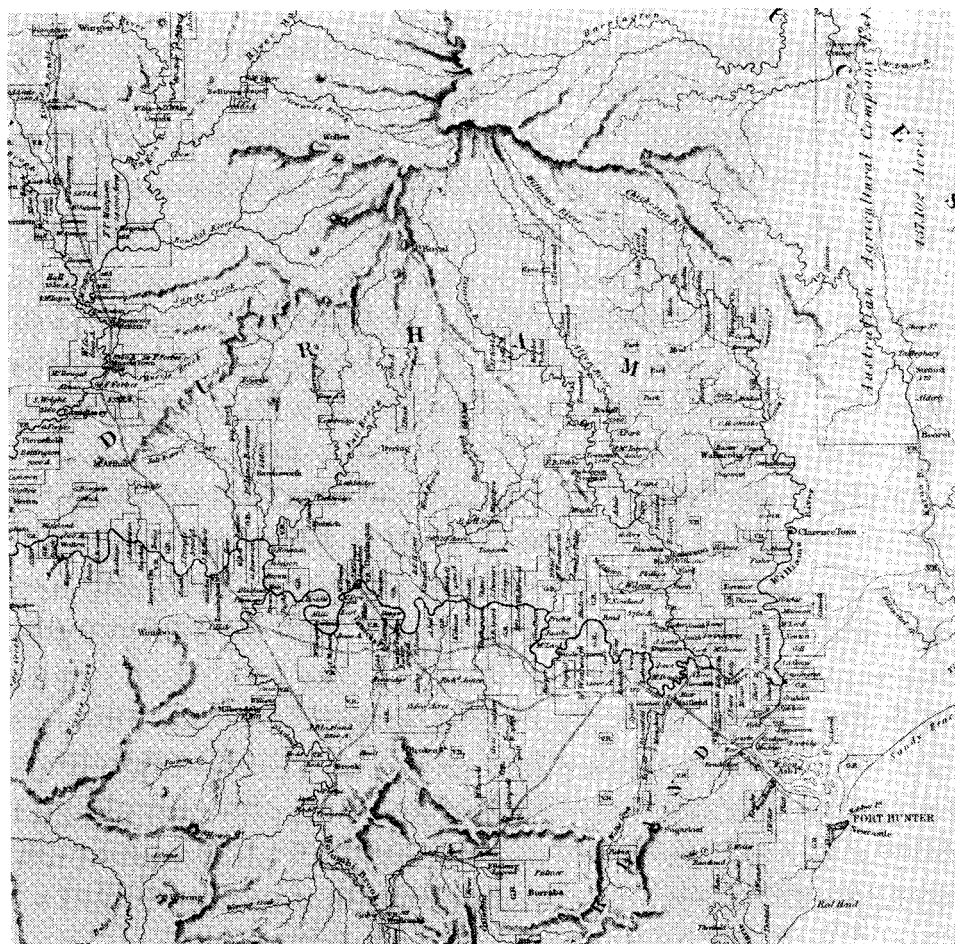
78) T. M. Perry: *ibid.*, 13), p. 45.

79) Land Regulations, 1831. in Note 116, H. R. A. I-XIV, pp. 864-867.

80) Glenelg to Gipps, 9 Aug. 1838. H. R. A. I-XIX, pp. 537-538.

81) Waste Lands Act, 5 & 6 Vict. c. 36. in C. M. H. Clark ed., *Select Documents in Australian History 1788-1850*. Sydney, 1950. pp. 239-242.

82) W. Baker: *ibid.*, 62).



第11図 1837年ディクソン作製図(注85), 部分)

では、第1図に示したような1829年までに確定された19郡のほか、マックアリー (Macquarie) 郡とメルボルン (Melbourne) 周辺のポート・フィリップ (Port Phillip) 地区の各図葉を作製しており、カンバーランド郡以外については1マイル方格を記載している。このうち8郡を除けばパリッシュに相当する区画と名称も記載されており、グロスター郡については前述のようにハンドレッド名の記入もある。

このように、1マイル方格およびパリッシュの設定などは原則として規定に従っているのであるが、各郡の地図に記入された下付地もしくは所有地の区画が必ずしも1マイル方格とすべて合致しているわけではない。その多くは長方形をなして1マイル幅の短辺を水流に接しているものであるが、中には幅が1マイルではなかったり、ほぼ1マイル幅の長方形ではあ

83) パリッシュ名がないのは、Cook, Bligh, St. Vincent, Phillip, Murray, Macquarie, King, Georgiana の8郡。他は Cumberland 53, Argyle 11, Camden 2 もしくは 4, Brisbane 10, Bathurst 38 以上, Westmoreland 4, Wellington 1, Roxburgh 9, Northumberland 15, Hunter 3, Gloucester 16, Durham 27, Port Phillip 58 である。

っても、1マイル方格とは合致しない形で1マイル幅が設定されているような例が意外に多い⁸⁴⁾。第11図は1837年にロンドンで出版された地図で、ポート・フィリップ地域を除く20郡内の下付地と販売済の土地区画を示したもののうちのハンター川流域付近の部分であるが⁸⁵⁾、東西または南北方向の長方形の地筆が短辺を水流に接する形で分布している状況をよく示している。1マイル幅の地筆が多いが、すべてが必ずしも厳密にそうであるわけでないことは前述の如くである。

このように、必ずしも1マイル方格に合致していない地筆が分布するのは、一部ではすでにオクスレイの時代からみられた現象であるが、すでにジーンズ (D. N. Jeans) が指摘するように、ミッチェルの考えと指示に由来している部分が多い⁸⁶⁾。例えば、測量長官就任後2年余を経た1830年、総督府官房長にあてた報告のなかで、次のように述べている。⁸⁷⁾

「自然的境界に従った領域の区分につきまして、私は満足して次のように申し上げます。今までなされてきましたことは訓令に従って居りますし、副測量官達は現在主として、この目的に役立ち、また同時に国土の満足できる地図を構成する自然境界線をたどることに従事しております。そしてバリッシュの設定もまた、進行する開墾の進展と歩調を合わせております」。

「私はしかしながら、一般的に申しまして国土の特殊な性格がそのような処置にたいへん不向きであると申し上げたいと存じます。良い土地はほんの少しの部分で残りは荒地であり、岩がちの峡谷で寸断されているので、正方形あるいはセクションへの人為的分割は多くの場所において想像の域を出るものではなく、現実的に有効なものでありえようがありません。そのような分割に適した地方ではしかし、すでに訓令に従ってバリッシュに区分され、セクションも設定されております」。

ミッチェルはこのように、いろいろな土地区画が自然条件に従ったものである方が良いと考えているのであり、人為的な方格プランには極めて批判的であったとみられる。1831年に、前掲のような新土地規定が定められ、1マイル方格プランが再確認されたが、その第24条⁸⁸⁾についてのミッチェルの次のような見解は、さらに詳細で興味深いものである。

84) Cumberland 郡に不規則な区画が多いことは、すでに示した(金田, 前掲2))が、ほかにも, Argyle, Cook, Camden, Brisbane, Wellington, St. Vincent, Roxburgh, Murray, Macquarie, King, Hunter, Gloucester などの各郡では、地筆の幅やその位置が1マイル方格に合致しない例が多い。

85) R. Dixon: Map of the Colony of New South Wales. London. 1837.

86) D. N. Jeans: *ibid.*, 10).

87) Surveyor General to Colonial Secretary, 12 Nov. 1830. A. O. N. S. W. 4/5397.

88) "The good Lands bearing a very small proportion to the rest, which lies Waste and is so broken by rocky Ravines, that any artificial division of it into Squares or Sections" D. N. Jeans (*ibid.*, 10))はこの部分を引用しているが、若干の誤植、脱落がある。

89) Surveyor General to Colonial Secretary, 9 Sep. 1831. A. O. N. S. W. 4/5398.

測量庁

1831年9月9日

謹啓

私は、総督閣下の御深慮につきまして、謹んで次のように申し上げたいと存じます。規定第22号第24条は、賃貸に供される土地を640 エーカーの区画ないしセクションを単位として競にかけべきことを定めたものでありますが、不整形なセクションあるいはどうしても要望が多い河川に面した部分の場合、そのように正確な面積の区画を設定することは著しい不便や困難をひき起こしがちであります。これらの不整形なセクションは、自然境界あるいは河川が曲がりくねっているために、規定どおりの面積を擁していないので、6つの完全なセクション分に相当する面積以上ではないような土地が、狭小に分割されて、自然の境界に画された12の区画からなっていることもありえます。賃貸を希望する人物によって要望されている土地というのは、自然で無視できないように明瞭に画された境界をもって居りますので、私は総督の御通知に対して、ぜひ次のように御説明申し上げたいと存じます。もし閣下が、土地をセクションに区分するかわりに、供される土地を全体として競にかけると御考えになると致しますれば、それは当庁の仕事を非常に容易にし、単純にすることになるものであります。セクションは単に名ばかりでありますし、それに対して他の境界ははっきりと画定されたものであります。私は、このような目的のためにセクションを使用致しますことが、土壌が均一で水が豊かな地方において、自然で明瞭に画された境界の代わりに採用されたものに違いないことを御指摘申し上げたいと存じます。ところが、この地方におきましては、特異な状況の季節と土壌のために、河川がその流路によって、ほとんどの土地に対する入植の可否を決定するのであります。この点につきまして何らかの重要性のあるものがすべて測量されますと、セクションの区画線に立ちかえること、新しい未調査の地方で発生したに違いないシステムを採用した測量・区画の推進を、実際上見合わせることになります。セクションの区画線は、河川に面した部分の入植者への平等な割りふり、保留地やパリッシュの設定あるいは他のさまざまな目的のために、地図上では極めて有用であります。しかし、放牧用地として一定の範囲の土地のすべてが必要とされるような場合や、植民地のどんなところにおいても選定されるような土地の場合には、それは、周知の測量済みの境界線を想像上の測線のために放棄するだけでなく、たまたまシドニーから遠く離れている入植者に、地図を承知する必要性を押しつけるものでもあることを申しあげたいと存じます。その地図とは、土地に標識が設定されていない測線を示したもので、それはもし可能であるならば、一時的な占有のために全植民地に標識が付されつくすはずのものであります。いまだに間違いや時折の論争に結びつき易いものであります。もしも、誰かが要望した一定の土地の中のあるセクションが、競によって他の入札者に落札されれば、それが柵で囲い込まれ

ない限り、このような状況の下では、異なったグループにとって放牧地として役に立たないことは明白であります。私は、失礼をかえりみず、その困難なことについてここに申しあげましたところの最近公布された手順につきまして、総督閣下が御変更を加え給うことを信ずるものであります。私はすでにそれを実施するよう努力して参りましたし、希望をもってなお続けて居ります。その規定は、実施に際して必要が生じ得るそのような変更を許容するものであるかと存じます。

敬白

T. L. ミッチェル<署名>

測量長官

総督府官房長閣下

ミッチェルは以上のように、極めて回りくどい表現で、対象を限定しながら方格プランに関する否定的な見解を述べている。しかし、王領地の賃貸のための手順という特定の対象についての意見であるにしろ、測量長官自身が方格プランを名目的なものに過ぎない、土地に全く刻印されていないものであると言い切っていることは、その必要性を強く主張した前任者と著しい対称を示すものである。

1834年には、やはり同じように、総督府官房長宛にニュー・サウス・ウェルズでは川や山地などの自然条件が有する意味が大きいので、それを何より重視すべきこと、従って一般測量こそが重要であることをくり返し述べ、自ら作製した地形図を添付して届けている。⁹⁰⁾

このようなミッチェルの基本的な考えは、いろいろな機会に部下に対しても具体的な形で指示された。例えば、1833年6月6日、測量官のホドル (R. Hoddle) は、バーカーという人物が役牛のためのパドック用地として購入を希望している区画が、セクションの区画線のままで一部しか河川をとり込んでいないので、彼の希望する境界線を自分が作製した地図に赤で記入して、手紙に添えてミッチェルに送付した。⁹¹⁾ その手紙の裏に記入されたメモには、その地方は川や谷などで非常に寸断された地形であるから「セクションの保存は実質的ではない」、としてホドルに彼の手紙どおりに実施するように指示することを記している。ミッチェルはこのように方格プランについては全く消極的ないし否定的であった。都市計画についても1829年にダーリング総督と共に都市の方格プランに関する規定を作成したものの、同年にマイトランド (Maitland) の設計をただけであり、その実施についても積極的ではなかった。⁹²⁾ 彼はその代

90) Surveyor-General Mitchell to Colonial Secretary Macleay, 25 Feb. 1834, H. R. A. I-XVII, pp. 421-424.

同図は同年にロンドンで出版されたもので経緯線、山地、河川、海岸線などが詳細に描かれている(後掲注93)参照。

91) Hoddle to Surveyor General, 6 Jun. 1833. A. O. N. S. W. 2/1544.

92) 金田、前掲1)

わり、熱心に体系的な地形測量と調査旅行を実施し、1838年に出版された『東オーストラリア内陸部への3回の探検旅行』を始め、多くの著書を著わし、また一般図を作製した。⁹³⁾しかし、彼は極めて多くの時間をそのような調査・探検に使用し、また1837年から1841年にかけての長期と、1847年から48年にかけてもロンドンへ出かけるためにシドニーを離れた。彼は一連の業績によって名誉学位とナイトの称号を得たが、⁹⁴⁾彼の在任中に方格プランはほとんど破綻することとなった。

b 方格プランの破綻

ニュー・サウス・ウェルズ植民地において、方格を規準とした測量と区画設定が破綻した理由について、ジーンズはミッチェルが方格プランに批判的であったことのほか、測量技術の問題と、前掲の1831年の土地規定以後に要請された測量・区画設定の迅速さが大きくかかわっていたことを指摘している。⁹⁵⁾ペリー (T. M. Perry) もまた、方格プランが総督府官房の地図上においては十分に明確なものであったが、河川沿いの部分を離れると実際に現地で確認できるような状況ではなかった、としている。⁹⁶⁾

このように、方格プランが図上の基準としては存在したものの、現地において必ずしも区画線が設けられていたり、明確な標識が設定されたりしたものではなかったことは、前掲の書簡において測量長官ミッチェル自身が述べているところである。ハンター川流域やバサースト付近あるいはアーガイル郡など、方格プランによる土地の区画と実際の入植が比較的早く進んだ川沿いの平坦地では、例えば第12図のノーサンパランド郡北部のように、確かに方格プランは現実の地割形態としてもある程度定着した。しかし、これらの各地で設定された方格の基準が別個にまた応急的・便宜的に設定されたものであったこと、経緯度の測定をせずに磁北を基準として方格線を設定したものであったことなどは先に明らかにしたところである。⁹⁸⁾従って、このような安易な測定規準は後に様々な混乱をひき起こすことになった。しかも、このような方格の設定は、正確な地図がないままに行われたのであり、19カ郡の基本的な三角測量が完成す

93) D. W. A. Baker: Mitchell, sir Thomas Livingston. in D. Pike ed., Australian Dictionary of Biography, Vol. 2. Melbourne. 1967. T. L. Mitchell: Map of the Colony of New South Wales, compiled from actual measurements with the chain and circumferenter, according to a trigonometrical survey. Sydney and London. 1834.

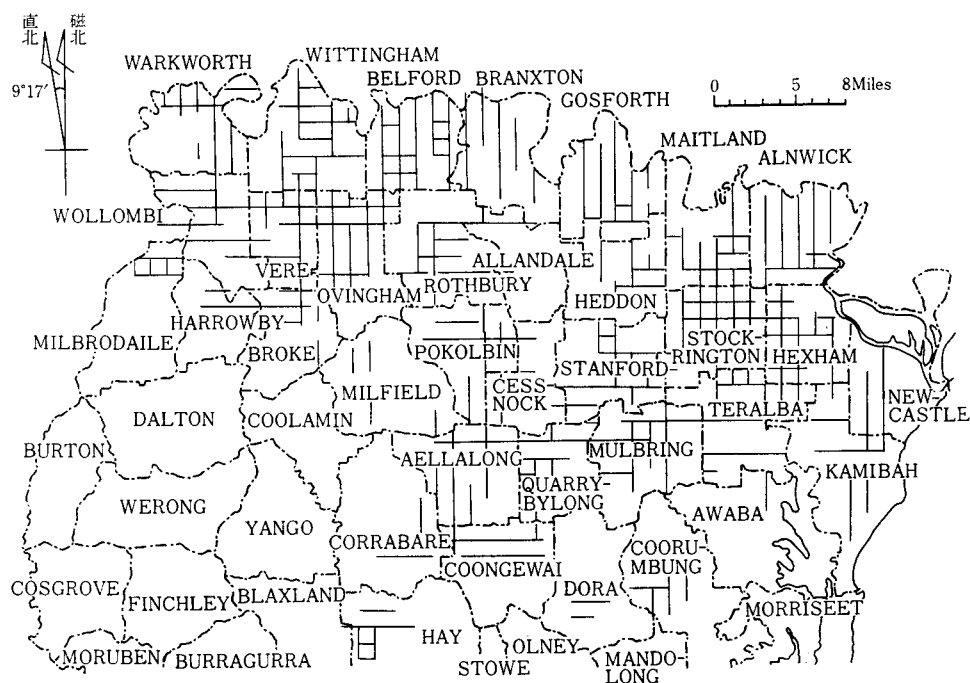
94) D. W. A. Baker: *ibid.*, 93).

95) D. N. Jeans: *ibid.*, 10).

96) T. M. Perry: *ibid.*, 13), p. 45.

97) T. M. Perry: *ibid.*, 13), 第7～10図などでその様子を示し、1820年代の開発状況を克明に追跡している。

98) 例えば D. N. Jeans (*ibid.*, 10)) によれば Sydney の西方の Parramatta では、1823年の偏差が 8°52' ないし 8°45' であったが、1841年には 9°27' になっていたというし、方格プランの設定が選択的・パッチ的である内はともかく、それが面的に拡大されてくると、どうしても齟齬が生じることになる。



第12図 ニューサウスウェルズ州ノーサンドランド郡北半部のパリッシュと方格地割

るのも、前述のように漸く1828年のことであった。さらに、当時の一般的な測量技術自体がかなりレベルの低い状況であったことが一層不正確さを助長した。一般の測量官の基本装備は、二つの可動照準器付きの磁石を脚に据え付けた地平測角器と測鎖であり、極めて誤差を生じ易いものであった。加えて、当時測鎖を使用する場合に、起伏を考慮しないのが普通であった。そのようにして設定されていたセクションの区画線は不正確であり、例えば前述のミッチェルの一般測量の場合にも基準としては使用できないものであった。¹⁰⁰⁾

さて、ミッチェルは前述のように方格プランに対しては批判的であり、一般測量を重視していた。改めて1マイル方格の遵守を指示した前述の1831年の土地規定についても、前掲の同年9月9日の総督府官房長あての手紙のようにその実施の困難さを主張した。このような動きを受けて、この規定について改めて検討した執行委員会は、1832年1月18日にその持続を決定した。¹⁰¹⁾ 執行委員会は測量次官ペリー (S. A. Perry) を招喚してその見解を質したのである。彼

99) 1834年に刊行された T. L. Mitchell 自身の作製した地図 (注93)) の場合も同様であり、そのように明記している。

100) D. N. Jeans: *ibid.*, 10).

さらに、測鎖に余分の輪を加えて長くしたり、80チェーンで1マイルとすべきところを81チェーンとしたりすることも行われたという。

101) Executive Council Minute, 18 Jan. 1832, Munite No. 3. A. O. N. S. W. 4/1517.

は1マイル方格を基本とする方針を続けることは一般測量の実施を進める足かせになり、また費用のかかることではあるが、混乱や間違いを防ぐ為に有用であると、ミッチェルとは異なった見解を述べ¹⁰²⁾、執行委員会がこれに従ったものである。

従って、1マイル方格は制度的には維持されることとなった。しかし、セクションの区画線の基準点は前述のように各地で別個にかつ応急的に設定されたものであり、実際の測量においても誤差が多い上に、磁北によったための混乱も加わっていた。しかも、ミッチェルは一般測量の方を重視し、前掲のように、時に方格プランを無視する指令を出していたのであるから、この1マイル間隔の方格プランは、場所による差異があるとはいえ、極めて不徹底でかつ不完全なものとなったのは当然の結果であった。¹⁰³⁾

1850年代になると、測量・区画システムについて抜本的な再検討が加えられた。そのための調査委員会は、依然として測量長官の任にあったミッチェルを含む多くの人々を招喚して証言を求め、広範囲にわたる調査結果を1855年8月11日に立法委員会に報告した。¹⁰⁴⁾ この測量庁調査委員会報告によれば、当時の測量庁では、測量長官が実施した一般測量および探検調査、河川および山脈の測量、下付あるいは入植用地の測量、これに類似したシドニー市の測量、特別の目的による測量などが実施され、その結果作製された①「三枚図」と呼ばれている印刷図、②オーストラリア東南部の一般図、③郡図、④河川・山脈図、⑤市街用地及び保留地図、⑥農場及び牧場図、⑦シドニー古図、⑧シドニーおよびポート・ジャクソン港新印刷図、⑨若干のパリッシュ図および道路図、などが使用されていた。①は35マイル分の1インチ、③は2マイル分の1インチであり、すべての土地区画や土地関係の記録は、旧来の磁石と測鎖によって作製された③の郡図によっており、それには一般測量の成果が全く使用されてはいなかった。これらの測量には測量庁所属の測量官のほかにも認可を得た民間測量技術者が従事したが、彼等は直接監督されなかったので、遠隔地の場合などは必ずしも義務を忠実に果さないことがあり、しかも必要な度ごとに現地へ赴く時間の損失が大きく、また測量そのものよりも測量庁への報告書の作製のために多大の時間を必要とするといった欠点があった。そこで調査委員会は次のような判断に導かれた。すなわち、従来のように申し込みがある度に調査・区画を実施することは当面断念し、また認可を得た民間測量技術者の雇用制度も廃止するという判断であり、方格

102) S. A. Perry は極めて有能な人物であったが、T. L. Mitchell は彼の次官就任自体を歓迎せず、従って十分な見解の一致を見なかったが、前述のように不在期間の長かった長官の代理を必要としたために長い間 Mitchell の次官を努めた (B. T. Dowd: Perry, Samuel Augustus, in D. Pike ed., Australian Dictionary of Biography, Vol. 2, Melbourne, 1967.).

103) 例えば後に Victoria として分離する Port Phillip Region などでは、1830年代後半以後であるが比較的整然とした1マイル方格やパリッシュの区画となっているが、これについては稿を改めて詳述する予定である。

104) Report from the Commissioners appointed to Inquire into the Surveyor General's Department, New South Wales Legislative Council, V. and P. 1855, Volume 2. pp. 1-15.

105) 植民地面積の広大さと、このシステムを維持する財政的負担がその主たる理由であり、システム変更の結果起こり得る様々な問題についても検討を加えている。

プランについても同様に継続を放棄した。¹⁰⁵⁾

「河川に接した部分以外は東西・南北方向に方形に区画をするというほぼ一般化した手法は継続されるべきではない。販売用の土地区画は、連絡路とその地方の地形を考慮して設定されるべきである」。

このようにして、ニュー・サウス・ウェルズ植民地において方格プランが完全に廃止されて1カ月余り後、方格プランに最も批判的で消極的であったミッチェルはこの世を去った。それから3年近くを経た1858年5月14日、やはり立法議会の特別委員会に招喚された測量庁の主任製図官マクリーン (A. G. Maclean) は、方格プランがどこかで続いているかとの質問に対して次のように答えた。¹⁰⁶⁾

「私はそれは全く続いていないと思います。土地の上における方格線も、図上の想像の方格線も両方とも」。

5. お わ り に

1821年12月1日に総督に就任したブリスベーンは、翌年2月18日、測量長官オクスレイに東西・南北方向の6マイル四方の正方形のタウンシップを設定し、その内部を1マイル四方のセクションに細分して北西隅に始まる1から36の番号を付すように指示した。オクスレイの指示を受けた測量官ダンガーによって、ハンター川流域の測量・区画が進められ、1823年までに1マイル方格の区画と23のタウンシップが設定された。バサースト付近においても1824年までに1マイル方格の区画と14のタウンシップが設定され、相前後してショウルヘブン沿岸、アーガイル郡でも測量・区画が進められた。しかし、これらはいずれの場合も火急の必要にせまられて実施されたものであり、基準点がそれぞれの地域で個別に設定され、またその経緯度の測定が行なわれないまま、磁北をそのまま方格の南北線としたものであった。1マイルの方格や6マイル四方を原則としたタウンシップが設定されたが、厳密なものではなく河川などの自然条件の方が優先された。

一方、ブリスベーンの指令の前年、オクスレイは植民地調査官ビッグに対し、新しい方格プランの採用の必要性を訴えていた。ビッグの報告を受けたロンドン政府は基本政策を変更し、植民地担当国務大臣バサーストが、1825年1月1日付で、約40マイル四方の郡、約100平方マイルのハンドレッド、約25平方マイルのパリッシュに区分すること、1マイル方格の区画を設定することなどの新指令を出した。ただし、区分に際しては自然条件を重視すべきとするものであった。この方針はブリスベーンの後任のダーリング総督への勅令によって一層明確に指示

106) Report from the Select Committee on the Management of the Survey Department, New South Wales Legislative Assembly, V. and P. 1858, Volume 2. Minutes of Evidence. pp. 11-12.

され、オクスレイと土地委員会はすでに実施してきた旧来の政策との継続性を保つことに腐心したが、タウンシップからパリッシュへの転換については全く異をとえなかった。

この新訓令に基いて1825年にはハンター川流域で6マイル四方を原則とするタウンシップから5マイル四方を原則とするパリッシュへと編成替えが行なわれて42のパリッシュが設定され、それは1857年の段階でも確認できるものとしてほぼ定着した。ただし、1828年の有名なダンガー図はやゝ特殊な状況で作製された地図であり、実際に設定された区画を正確に示しているものではなかった。バサースト付近でもパリッシュは設定されたが、この場合には1829年図から知られるように、旧来のタウンシップの区画をそのままにしてパリッシュとし、新設分についてだけ新規定を適用したものであった。このように、必ずしも一定の方法・規準ではないがパリッシュと1マイル方格の設定が進行した。

一方、グロスター郡で1843年頃までに4つのハンドレッドが設定され、カンバーランド郡が1835年までに13ハンドレッドに区分されたほかにはハンドレッドは設定されなかった。カンバーランド郡のハンドレッドは3～9のパリッシュから成っており、合計57のパリッシュは以前の区を実質的に踏襲した単位とみられる。さらに郡もまた1829年までに19が確定され、入植対象地の範囲とされた。しかし、パリッシュ・ハンドレッド・郡のいずれも実質的な地域単位としては未成熟のままであり、例えば1840年に確定された30の警察管区、1843年に設定された28の区会なども郡を単位とはしていなかった。

ところで、オクスレイの没後、1828年から測量長官に就任したミッチェルは一般測量を重視し、三角測量を推進して地形図の作製を進めたが、方格プランについては極めて消極的・批判的であり、総督府に対してその見解を表明する一方、実際上も測量官達に対し、しばしば方格プランを遵守しない指示を出していた。例えば、1831年の新しい土地規定は方格プランを軸とした19世紀中頃までの土地関係の基本となったものであったが、これに対しても否定的な見解を書き送った為、翌年執行委員会はその再検討を行なった。ただし、測量次官ペリーの意見を容れてそれを持続する決定を下した。

しかし、ミッチェルの反対のみならず、前述のように便宜的・応急的に開始され、かつ極めて不正確な方格プランであったし、1831年の土地規定以来、土地の販売申し込み件数が極めて多くなり、方格プランの維持が次第に困難となってきた。そこで1855年に立法委員会に設けられた測量庁調査委員会は、広範囲にわたる全面的な調査を実施し、その結果方格プランの維持を断念することを決定した。このようにして、1822年の導入以来、もともと不完全であり、また曲折を経ながらも実施され、維持されてきた方格プランを軸とする測量・区画のシステムは完全に放棄されることとなった。

以上が、小稿で明らかにし得たニュー・サウス・ウェルズ植民地における1820年代から50年代にかけての方格プランの流れの概要である。しかし、同じ勅令・指令の下にあったにもかか

わらず、バン・ディーメンズ・ランド、西オーストラリア、ビクトリアなどの範囲ではかなり異なった様相が展開する。その検討が次の課題である。

〔付記〕

小稿の骨子は1982年の人文地理学会第144回例会において発表したものであるが、1983年に豪日交流基金の研究奨励金を得て滞豪・集収した資料によって大幅に補訂したものである。Melbourne 大学の Dr. T. M. Perry, Sydney 大学の Dr. D. N. Jeans, Monash 大学の Dr. J. M. Powell には色々と御協力・御助言を得た。深く御礼申し上げる。また、資料の閲覧・複写をさせていただいた National Library of Australia, The Mitchell Library, Archives Office of New South Wales にも深謝する。